(明治三十八年七月廿六日第三種郵便物認可)

明治四十年七月二十六日　金曜日　滿洲日報第五百八十九號　(一)

滿洲日報

●新聞代定價 一枚四錢 一ヶ月前金八十錢 半ヶ年全四圓八十錢 一ヶ年全九圓六十錢
●廣告料 五號活字十九字詰一行一回五十錢 特別廣告全 壹圓
●本報目價 中年四元八角 全年九元六角 一月八角
●告白刊例 一行五號十九字一日每行五角 登長期價目面議
發行所 營口前本街 滿洲日報社 電話 編輯室 二一一 事務室 二一九

安東縣新市街 滿洲日報出張所
遼陽停車場前六一二 滿洲日報社支局
奉天大東門內 滿洲日報社支局
全十間房 滿洲日報社出張所
鐵嶺火神廟街 滿洲日報社支局
公主嶺支那町 滿洲日報社出張所
孟家屯驛前 滿洲日報社支局
大連信濃町 滿洲日報社支局

鐵道列車發着時間表

大連地方 … [illegible]

船客十六名雜貨百四十餘噸なりしが本日雜貨を搭載內地へ向け出帆の筈 … [illegible]

本日の吾が誕辰

滿洲日報

今年の吾が誕生日は猶昨年の吾が誕生日の如し、若し誕生日其物より言ふ、年々歳々同一事を繰返すに過ぎずして、特に其稱すべきを見ずと雖も、四圍の事情の年一年歳一歳に新なりとする則ち吾が誕辰亦年一年歳一歳に新ならざるを得ず、若し新聞紙の命脈の永遠無窮なるよりする、其年々歳々に於て誕生日を祝せんと、頗る其煩に堪へざるが如しと雖も、已に誕生日を以て或時代の新紀元とする、則ち煩亦必ずしも厭ふべしと爲さゞる也。

最近に於ける滿洲時局の變化は極めて急劇迅速なりと謂ふへし、單に營口に就て之を言ふ、昨年の本日は尚軍政時代に在り、當時戰亂を距る遠からず、兵馬倥傯、百般の事物尚混沌の情態を脱する能はざりしと雖も、今や一年にして煥然たる新市街の建造を見、在留邦民自治の基礎たるへき民會の創設を見、其商工業者は漸く根柢ある自己の地盤上に立たんとし、諸種の團體若しくば俱樂部の類の創設せられて、相互の友情を結合すへき機關は漸く多からんとす、是れ昨年の絶えて見る能はざる所にして、今年の始めて之れ有る所、變遷の迅快、寧ろ驚嘆に足らずや。

更に眼を轉じて之を滿洲の全局に觀んか、武裝せる三省の山河、已に全く妖氛を掃盡して、平和の曙光東天に高く、滿洲開放の實漸く擧りて其重要都市は開放せられ、滿洲の大動脉たる我南滿鐵道は已に會社の經營に歸して平和の設備に忙はしく、而して清國政府亦百年の長夢より漸く覺醒して、滿洲の統治組織を改革し、已に總督を任じ巡撫を派し、鋭意新政を圖り、今や彼我官憲各ゝ樽俎の間に折衝して重要の問題を協商し、睚めて隣交の輯穆を圖らんとす、唯だ昨今道路傳ふる所に據る、商議の進行甚だ良好ならざるが如しと雖も、兩國の隣交を顧念するに切なる、其早晩審議妥協を見んと期して竢つへしと爲す、吾人が平和の戰士として、一枝の毛管、以て昭代の盛運に貢献するの機會は是れより益ゝ多からんとす而して是れ實に昨年の本日に於て殆ど豫想し能はざる所にして今日の始めて之れ有る所。

眼睛再轉、更に之を世界の大局に觀んか、一年の歳月短しと雖も、最近に於ける世界の重要問題は多く此間に起生せるを見る、彼の米民排日問題の如き、日佛協約訂結の如き、近くは平和會議の開會より端無く韓國問題を惹起しつゝあるが如き、若しくは將に彼我の調印を見んとする日露修交通商條約の如き、孰れも我邦の重大問題にして亦併せて世界の重要問題たり其對米問題の如き對韓問題の如き吾人は寧ろ其發生を悲む者と雖も、而も我國運進展の前程に當り免るべからざる一時の障害なりとする、則ち是れも亦我利鈍を試むへき好個の試金石に非すや、而して是亦獨り今日に於て起生せる新事實なると固より論無し。

之を要するに吾人を圍繞する四圍の情況は其の直接と間接とに論無く、最近一年の間著しく變化せるを見たり、思ふに次て來るべき明年の吾が誕辰に於て今日を見ると猶今日の昨年を見るが如くなる以て推すべしと爲す、言論界の多事は必ずしも慶祝に値せざるべきも、毎年逢着すべき誕生日に於て、一歳は一歳より何等か希望の洋々たるありとする、則ち本日の吾が誕辰、誰れか竟に其の用無しと謂ふ者ぞ。

雜報

清國近事

▲岑春煊の奏參　岑總督が上海に滯留し命を奉ずるも頑として動かざるに付き陳慶桂の行ひたる奏參に云へり曰く岑避けて任に到らず罪三款あり曰く欺曰く貪曰く暴欺は則ち名は忠實となすも實は則ち陰險なり某年京に在て曾て麥孟華を用ひて監督となし嚴行緝拿せるの人を岑は腹心となし現に上海に電招せり貪は則ち粤に在るの時滙票百餘萬を私し暴は則ち殺戮を擅まゝにせる也

▲清官叙任(涉曆六月十二日付)

陸軍部左丞　姚錫光
陸軍部右丞　朱彭壽
陸軍部左參議　許秉琦
陸軍部右參議　慶蕃
軍諮處正使　馮國璋
軍諮處副使　哈漢章
海軍處副使　譚學衡

▲農工商部と韓國商務　此程農工商部各堂憲は韓國全境東三省と地を接し商務亦漸く繁盛に赴きつゝあれば亟かに意を加へ利源の擴張をなすべしとなし現に各省督撫に電致し商情經濟に熟悉するの幹員を派し釜山羣山鎭南浦等に赴かしめ通商事宜を辦理せしめ宜しく商業を振興せしむべきことを以てしたり

▲楊公使と入旗都統　駐日公使楊樞氏は既報の如く愈ゝ辭任したるが後任公使李家駒の來任を俟ちて事務引きつぎを行ひ歸國後は入旗副都統に任ぜらる可しと云ふ

▲安徽事件と女學生　浙江巡撫の政府に電致したる所によれば現に金華府に於て徐錫麟と同謀事を起すの王秋瑾を捕縛し正に訊問中にありと(秋瑾は曾て日本に留學し東京實踐女學校に肄業せし女學生なりと)

▲洋款と度支部　度支部左丞同左丞陳宗嬀氏は從來各省が洋款を借りて新事業を計畫し悉く洋人の利する處となれる歷史を述べ爾今外債を借らさるの明諭を聲明せられたき旨を懇請したり

▲雲貴礦産の調査　農工商部は雲貴總督に向ひ同省に於ける各州縣の礦産に付き詳細に調査し並に前總督が佛人と訂する所の條約を將て委細本部に聲明すべきことを以てしたり

露國の經濟事情(三)

(コンテンポラーレヴユー所載　エリス、ベーカー氏所論)

世界中如何なる國民と雖も露西亞ほど田舍の人口の割合に多き國はあらさるべし。何となれは露西亞にては都會の人口は僅かに全人口の一割四分を占むるに止まり其八割六分は田舍に住すれはなり、換言すれは露國人口の八割乃至九割は農業に從事し、唯僅少のものゝみ商工業に從事する譯なり。即ち農業は實際露國唯一の財源にして確かに國の經濟的基礎なりと云ふも差支なし。故に露國の農業狀態を研究するは同國財力を評價する上に於て大藏大臣の眩惑的數字よりも遙かに有効なること明かなり

獨乙、澳太利、匃牙利、北米合衆國、加奈陀、亞爾然丁等の農業國に於て農民の地位は此二三十年間驚くへき程改良せられたるに反し、露國農民は却て衰退し且づ年々益ゝ退歩しつゝあり。露國の人口は急激に增加し百年前其人口は四千万人なりしを、五十年前には七千五百万人となり、現時にては一億五千万人に達せり。即ち露國にては年々百八十万の人口を增加する譯にて我英國の年々三十万の增加を見るに比して其の繁殖力遙かに大なりと云ふへし。此の迅速なる人口增加の結果として農民の耕作すへき土地は益ゝ多くの人民の間に細分せられ、普通一人前の耕作すへき土地の收穫にては家族を養ふこと能はさるに至れり。此事實は多くの露國農學者の既に認むる所にして又同國農務大臣の知る所なり。且つ露西亞の農業は肥料と耕耘の不充分なるか爲に費多くして收穫少なし露國の農民は輕き木の鋤を以て唯淺く土を掻き立つるのみにて深く堀り起すことを爲さす、農民は貧窮にして鐵製の鋤及び其他近代の農具を買入るゝの資力なく、地力は斯くの如にして漸次消耗しつゝあり。露西亞は恐らく世界に於て最も豐饒の土地を有するものならん、然しそれにも拘らす此頃英國の農務省に於て發行せる農事統計表に依るに、露國農産物の收穫は實に著しく少額なり

千九百五年に至るまで五年間の平均收獲

	小麥 ブッセル	らいむぎ ブッセル	大麥 ブッセル	燕麥 ブッセル
英國	二九、九一	ー	三二、五七	四一、〇九
獨乙	二八、二四	二三、八四	三二、八一	三九、三九
佛蘭西	一九、二二	一六、〇〇	二二、一八	二六、六〇
匃牙利	一七、五四	一五、九二	二〇、九四	二四、八四
ルマニア	一六、二四	一四、八八	一六、三五	一九、九七
勃牙利	一四、〇〇	一三、二二	一七、六二	ー
歐洲露西亞(波蘭を除く)	九、六八	一一、三三	一二、六四	一六、二五

以上の表に依りて見るに露國の收獲は英國佛蘭西及び隣接諸國に比して甚だ少なきを知るに足らん。且つ彼のロヒチンの與ふる次の統計表を一覽するときは益ゝ露國農業不振にして費多きを知り得へし。

一デシヤチンの平均收獲

英國	一二三、四布度
北米合衆國	八三、二布度
印度	七四、〇布度
獨乙	七四、八布度
以太利	五七、五布度
露西亞	三八、八布度

(註)でしやちんは我一町歩餘にして布度は四貫三百六十目に相當す

而してロヒチンの云ふ所に從へは凡そ世界に於て露西亞程收獲の割合少なき所なく如何なる國と雖も露國の如く農法の疎笨なるものなしと云ふ。又コルニロフの言に依れは千八百七十年より千九百年に至る過去三十年間に一ファームに付き家畜の數は三割六分八厘減せしのみならす、一エークルに付て計算するも家畜の數は著しく減少せり

家庭小話

夏季の飲料

▲夏の飲料として最も人の嗜むのは氷水である。其次に氷で製した金時、宇治などで又アイスクリーム、ラムネ、密柑水なども隨分よく人の口に入るものである

▲元來氷は人体によくないもので、一度口を通つて胃に入ると、頭の先より心底に泌み込むやうに冷やかに感じる、あまり冷やかなものは胃を害めるから、從つて不消化になる、氷を澤山食べた人は早く白髮が出來る位である、金時などはみぞれよりも數倍惡い、夏は小豆は腐敗し易ひのに氷の爲めに一寸味ひ分けが六ケしい。又アイスクリームも往々變味した牛乳や鷄卵を交へたものがある。これらは外部より見て分らぬ許りでなく、舌へ載せても冷めたい爲めになか〳〵分り離い、而かも街上で賣つて居るものには澤山の塵埃が交つて居る

▲ラムネも原料の不良のものが往々ある。ラムネの容器を外より透かして見て、若し混濁を呈するか、沈澱物があらばそは變味したもので人体によくない

▲飲料の外に夏には水菓子と駄菓子屋に寒天やわらびで製したものを硝子の小さなものに入れた者を店頭で見ることがある。これも有毒の着色をすることがよくあるので子供に與へぬ方が安全である

▲總じて夏季は腐敗し易く、而して人体は消化不良に陷り易いから、食料なども一度沸騰したるものを、井に下して渴きたる時飲むやうに注意されたい

●世界叢談

▲諸外國の結婚月　英國にては四月、六月、十二月に結婚するもの最も多く五月最も少なし是に反して和蘭にては五月に結婚するもの最も多く露西亞にては一月及び二月諾威にては六月及び十月に結婚するもの最も多き由傳へらる

▲子供の生れぬ町　米國ニューゼルシーの小さなる町マークスボローといふは人口五百計りの小なる町なるが過る五年前より絶えて赤兒の泣き聲を聞きし事なしソハ如何なる譯かと聞くは全町に小兒の生れざる爲にて目下其原因を調査中なりと此際若し子供を産みし者ある時は全町擧つて大祝ひを爲すべしとの事なり

▲七十ヶ國の語に通ず　先頃死せし米國人のシエレシア、カルテンといふ博言學者は七十ヶ國の語に通じ居たりと

▲世界第一の大地主　先頃七十五の祝賀をしたるルイス、テラザス氏は墨西哥に於ける唯一の財産家にて世界第一の大地主なりとの噂あり氏は財産は現在四億にして又氏の養子クリール氏は該國第一の銀行家の由

▲二千万圓の住家　米國の富豪ジョージールト氏は紐育の第五街にある同氏の邸宅を毀ち同所に美麗なる六層の家屋を新築中なるが其建築費は二千万圓にしてインデアナ州産の石灰石を以て築くものなりと

新刊紹介

○大阪婦女新聞(第六十六號)　毎月三回の發行にして關西唯一の家庭雜誌なり本號には女子と職業、主婦の常務、臺所の衞生、大婆の局、流行は妙な物等の題目を揭げ極めて平易に記述せり定價金三錢九厘(大阪西區江戸堀同社)

○大阪パック　第二年第十三號　滑稽欄出して相變らず面白しダマス雜錄を讀むより此の方が遙に興味あり毎月二回定價金十一錢(大阪東區備後町四丁目輝文館)

○流行(第四年七月號)　夏向きの涼しさうな流行柄を揭載せり毎月一回(東京日本橋區白木屋呉服店)

快男兒

第二十四回　渡邊默禪

龜「大金儲けの種だとは耳寄だが、そりやア一體、ど、如何したつてンだ、俺にも半口乘せて貰はうかな」濱「乘せないとは言ひやしないよ、半口どころか全然一口乘せて上げらアね」龜「ドツコイ締めた、前祝ひに一杯飲まうか」濱「未だ早いよ、噺しの封切も爲ない先から、祝も酒も無いもンだ」龜「違へねえ、未だ承はり申しませぬて、ござり申したかアハヽヽ」濱「彼の女はね龜さんと一際聲を窃め、前夜良人の善十郎が伴ひ來りし事柄より、お琴の身上の事情とを具さに語り」濱「今朝ッから彼の二本棒がツノ阿母を探しに出掛けたが、未だ戻つてこない所を見ると、大方未だ手掛がないので、マゴ〳〵してるに違ひない、話しを聞いて見ると辻堂の中で、ヒヨいと妾が見えなくなつたンだといふし、其邊一面血だらけで爾も泥足の痕があつたと云ふから、まア妾の鑑定ぢやア、泥棒か追剝の樣な、夜稼ぎの惡い奴に魅込まれて、バツサリ殺られたンだと思ふのさ」龜「ウンそれから」濱「殺されて死體を隱されてもしたのなら幾個探したツて、發覺る氣づかひは有りやアしないやねえ」龜「成程」濱「そこでの相談たがね、阿母が戻ツてこない者とすると、彼の女の身は一人ボツチて、取殘された棄兒同然、家は燒かれるお城は官軍に取卷かれて今にも落ちさうてさ、親仁の生死さへ分らず、便る親戚も無いツてえ情けない境界だらう」龜「爾よ」濱「それがソレ此方の突込所だ、何とか箇とか親切ごかしに持かけて、巧く欺してやツてさ、ソラ恁いふ寸法にするのは如何だい」と、何事か耳打すると、龜はニタニタと打笑み　龜「ウン〳〵、甘え〳〵犬も歩けば棒、こいつア大層も無え飲代に有附いた、彼の容色なら何樣足て踏出したつて、百兩や二百兩は請合だてえ貨物だ、コウお濱、一番犢鼻褌を締めて、シツカリ行つて見やうかい」濱「アヽ、お前さんの腕でもつてねえ、タンマリとしたお金になる樣に働いて見てお呉れ、妾ア妾で智惠のありつたけ、趣向をするから」龜「爾と話が定つたら話しをするがねお濱、今の阿母つてえのが、藥師の堂で見えなくなつた一件に就いて、些と此方に心當りもあるんだ、事に依たら昨夕のが、それぢやア無いか知らん」濱「オヤ心當りが……何如したといふのえ」龜「されば斯いふ譯だ」と、窃々囁く言葉はいかなる事柄なりしかお濱は驚きし面色、「ヘエー爾かい、まア……世の中は種々だねえ」龜「如何せ碎いて見たら、皆な色と慾どの沙婆だなア、ちやアお濱、亭主が戻つてこねえ中にお暇だ、可しか今の一件は」濱「アイヨ」と、立別れ、人目のなき裏手の畦道より何處へか姿を消しぬ、そも〳〵此のお濱と云へる女は、以前江戸に近き武州忍(十萬石)松平下總守殿の領地の生れにして、野州宇都宮の料理茶店へ酌女に賣られそれより流〳〵れて奥州街道を廻りたる末會津に入込み、此の高久村より一里半先の越後街道、坂下といふ驛中の茶屋へ達摩に住込み(淫賣婦なり、奥州にては之れを達摩といふ轉ぶの意)土地の百姓達を惱し居る中善十郎が出入先なる遠寺(高久村より二里)の莊屋が深く之れに陷り遂に、落藉をし、外に圍ひ置きたる所、その旦那の莊屋が病死したるに依り、家族はお濱の處分に困り、若干かの金を添へて善十郎に與れ娶斗附の女房となしたるものなるが斯る女だけに海山千年の古苦を甲羅に負ひ人を人とも思はぬ大莫迦、己れの素性を知らぬ亭主が、唯一人を大事と氣嫌を取つてお嬶大明神と敬ひまつるお人好しに突込み平生我儘三昧の振舞をなして尻の下に敷くのみか豫て坂下にゐたる頃より、深く馴染みし情夫なりき、さて其日の通過となり、菊代を探しに出でたる主人の善十郎、大勢の百姓と共にトヤ〳〵と戻り來れり、菊代の成行は果して如何にや。

倫敦電報

●日本公債の締切（廿四日發）

日本公債（滿鉄社債？）は一磅二分の一の割引に迄達せしが結局一磅四分の一の割引を以て〆切りとなれり猶ほ其筋の承認する所に據れば全債額の四割八分はアンダーライターの引受くる所となれりと云ふ

●英使と英露協商（同上）

露都駐剳英國大使は英露協商に關する要務を帶びて倫敦に歸着せり該協商は良好に進渉しつゝあるも猶討議の內にあるを以て少くとも數週間の後にあらざれば成立を見るに至らざるべし

●兵制案の三讀會通過（同上）

英國貴族院は滿場一致を以て地方兵制案の第三讀會を通過せり

●印度貴族の態度（同上）

倫敦タイムス紙は印度より寄送せる長篇の一論文を掲載せり該論文は精確に印度國貴族の英國に對する態度を説明せるものにして印度國貴族は英國が現時の政策を繼續する間は從令如何なる危機に際會するも英國に對して忠誠を全ふし其運命を英國と共にすべき旨を言明せり

東京電報

●日韓新協約の成立

二十五日午前十時東京特置通信員特電

日韓新協約成立せり其內容は七ケ條あり內政上伊藤統監に絶体の權力を附與し皇帝と雖も統監の承認あるに非れば專斷を許さざること及び韓國官吏に日本人を採用すること等なり

●第十二師團の韓國派遣

二十五日午後四時發電

第十二師團より第十旅團を韓國に派遣すると決し今日より輸送を開始せり

●樞府の協約可決

樞密院會議にて日韓協約可決せらる

●日韓協約の發表

日韓協約本日發表さる內容既報の通り

奉天電報

●後藤總裁の來奉

廿五日午後三時奉天支社發

後藤總裁昨夜十時來奉一兩日滯在の筈

鐵嶺電報

●後藤總裁來る

二十五日午前九時鐵嶺特置通信員特電

後藤滿鐵總裁昨日午後四時來着直に官民の催せる公園倶樂部の歡迎會に臨み同七時四十分發奉天に向ふ送迎人甚だ多し

大連電報

●滿鐵の總支出金

二十五日午後四時大連支社特電

滿鉄會社成立以來今日迄に支出せる金額は總計約一百二十萬圓なりといふ

●水產評議員會

二十七日水產組合は漁村設置に關し評議員會を開くべし

●後藤總裁の行程

後藤總裁は二十七日ホウテン發二十八日安東縣着三十一日安東縣發歸連の豫定なり

●小學校舍の建築

大連小學校生徒現在數七百十人と爲れり之か新築校舍費額十四萬餘圓を要す目下建築に着手せり

●毒婦テイの拘引

毒婦今井テイ昨日に至り拘引されたり

●警署風紀の取締

當地警務課は刑事巡查の風紀を矯め之が廓淸を爲さんとて密に調查中なりとの風說あり

雜報

●獨逸の對淸策

獨逸醫學士メンケー氏は頃日某新紙に於て膠州灣問間を論して云はく淸國の人心を得んと欲せば政府の自私なきことを示すに若くは莫し故に獨乙は山東省に於ける政治の權利を抛棄せることを宣布すべし淸人一たび我に政治を𥨥奪するの念なきを見は必ず深く我を信じて疑はざるなり然らずして獨乙は永遠に假令膠州灣の主權を掌握するも寸毫も實益なきなり如かず膠州灣を淸國に還付し上海の例に倣ふて歐羅巴居留地を設け更に鉄道を延長し獨乙學校を起すを得策なりとす然れば膠州は獨淸間の智力及交際の都府となり併せて淸國內に商業を擴張する事を得べしと云々

●日米問題と第三國

駐米青木大使は獨乙新聞フランクュルテル、ツァイツングの通信員の訪問を受け之に答へて曰く日米間の紛議は第三國の教唆に由るなといふは全く謂れなき虛言なり斯る風說の事實無根なるは日本政府善く之を知り日本國民も亦善く之を解せりと青木大使の所謂風說とは倫敦新聞デーレー、メールの海牙通信に見えたる所を斥すならんか其の奇怪なる報道は世人信ずる者なしと

●病院船規定

海牙發電に據れは現行の條約中戰時病院船補獲の件に關し日英獨米等數國委員の起草したる修正案は十六日の委員會を通過したり要は本條約の事項を詳細に規定したるものなり

●進步黨の新旗幟

稅法審查の結果二百万圓の收入減額を見る計算なるも實際此の如き減額を生ずるや否や覺束なく要するに姑息なる調查の結果は殆んと國民多數の不滿足とする處なるを以て進步黨は該會に關する調查材料の入手次第直ちに財政調查會を開きて政府案反對の決議を爲し之れを旗幟として來期の總選擧に呼號する計畫なりと云ふ

●砂糖官營の否決

酒專賣及び砂糖專賣は一財源として稅法審查會に上れる由なるか砂糖專賣に就き政府の調查する所に依れは精製糖會社株を市價以內即ち八九十圓にて買收するものとしても一個年の收益三百七八十万圓に過ぎざる殊に砂糖は貿易品として東洋市場に雄飛をる見込あるものなれは寧ろ民間の經營に一任すへしとの說多數にて砂糖官營案は終に成立せざりしと云ふ

●大博覽會敷地決定

四十五年開設せらるへき日本大博覽會敷地に關し當局は一坪五圓乃至六圓と見積り三十万坪を是に充つるとし建物坪數は總計四万五千坪、位置は青山練兵場とし大森に水族館のみを分立する筈にて本館は分つて工業、機械、美術、教育、林業、礦山、農產水產外園藝（盆栽等）食料品（鑵詰酒類等）の十一種とする筈なりと消通は報ぜり

●加藤總領事の淸國談（歸朝の途上、長崎に於て）

▲奉天へ轉任の風說　萩原が愈々逃げるとなると或は私に貧乏籤が廻つて來るかも知れませぬ兎に角東京へ行つて見ねば何とも分りません

▲天津の兵器密輸入問題　獨逸商人が密輸入を企て沒收せられたと云ふのは表面の事で淸國政府が賠償金を出したとすれば裏面には何等かの事情があつたのではないかと云ふ事は天津の新聞にも書いたのがあつた樣ですが其後は餘り密輸入の話も聞きませんでした

▲福州船渠　を日本人と共同經營にすると云ふ噂ですがチャイナ、クリチック（記者曰く近着のチャイナ、クリチック紙上に淸國軍機局は福州官立造船所が曾て一隻の船舶をも建造したる事なく又修繕工事も完全になすこと能はざるに拘らず其維持費として每年百万兩を要するが如き不經濟のものあり而して該造船所は日本人之を讓受け淸國へ每年一定の納附金をなして之が經營をなさんと北京政府に出願したりとの記事あり）に書いて居るそうですが外字新聞には種々の中傷的記事もあり戰時中より或國の爲めに買收せられ今尙若干宛の補助を得て居る新聞もあるそうですからウカと信じられませんシカシ福州造船所が豫記の成績を收め得ざることは事實です

▲白河の浚渫　今は金が無くなつたので中止の有樣です、白河の浚渫と云つてもエス字形に重なつて回れる上流を縱に中央より直截的通路を開鑿するのと河口の洲を堀るのとは種々利害を異にし關係者間に議論かあり又當初は總督の方より金は出たから英國側の出資を止め總督の要求を容れたのですけれとも今では總督の方でも金策かつかぬと見へ目下行惱みの姿です私も工事上に關し研究して見る積りでしたか在任の日か永くなかつたので（此の言より推すと奉天轉任のとは既に內定し居るもの丶如し）深く研究か出來ませんてした

▲造幣局鑄造の銅貨　は政府も少しは儲かり且今日ては銅の市價も高いから流通上良好の成績を得るでせうしかし支那は貨幣を地金相場で流通する國で法定相場は一錢は十錢の十分の一て十錢は一弗の十分の一として御承知の通り弗と小銀貨と吊文錢と日々市價か立つ位て一寸した買物位は一弗を渡して十錢の小銀貨十枚の過剩金を貰うような始末て如何なる貨幣か出ても地金相場て通用ずるのですから新銅貨も一般の經濟界には別に影響するほどのとは有ません

▲煙館の禁止　直隷總督の發議てあるから天津ては卒先勵行されたのてせう、英租界ては固より之れを公許せず日本租界でも日本商人に利害關係か無いから總督の望みに應し又墺伊佛獨の租界ては煙館に相當の資本を下して居るから急に禁止せられては困るだらうと云ふので每月營業の繼續願を出す都度旨を諭して六月より全く無くなりましたしかし內々ては多少營業して居る樣ですか我日本租界內ては總督府の取締の寬嚴に準して寬嚴いづれともしやうと初めから申込んてあつたので先方ても喜んで居る樣です

▲袁總督の近狀　失意とか得意とか順境とか逆境とか云ふのは御承知通りの中央政界ですから分りません、愈々深く支那の內情を知れは知るほと愈々分らないやうになるさうです實際此邊の消息は分らぬと云ふのが至當でせう云々

●徐總督の吉林巡視期

屢報の如く徐總督には蒞任後直に吉林巡視の筈なりし所遷延今日に及べるが愈々淸曆六月二十六日即ち陽曆八月五日淸皇の萬壽聖節祝賀を終へたる後直に起程すると決したりと

●奉天淸國停車場移轉の噂

淸國なる奉新鐵道奉天停車場は現在省城を距る約一里に近く且つ我滿鐵線路を橫斷せざる可らさるか爲め不便甚だしきを以て之を小西邊門外に移すへき意向あり然れとも之を實行せんと欲せは先つ滿鐵會社の承諾を得ざる可らさるを以て未た提言を見すと雖も早晩何等か交涉を開始せらるへしといふ然れとも滿鐵の之を拒絕すへきは當然なれとも一說には滿鐵に於ても淸國停車場と共に之を小西邊門に移すへき意向無きにしもあらすといふ

●唐巡撫と奉京鐵道督辦

唐巡撫か徐總督と權限上に於ける惡感情より奉天を去り再び中央政府に任用せらるへしとは曾て報道せる所なるか更に北京よりの通信に據れは同巡撫は奉京鐵道督辦に任せらるへしとの說ありといふ

●松花江一帶の電線還付

露國は此程哈爾賓より拉哈蘇に至る松花江一帶の電線を悉皆淸國に還付したりと云ふ

●露國守備隊の移動

東淸鐵道守備に任じ各地に分屯せる露國軍隊は本月初旬より中隊若くは大隊位宛交代移動を開始したりと云ふ右は守備區域變更の結果なりと

●鴨綠江流下の木筏現狀

安東縣に於て目下木材廠檢查場に繫留しある木筏數は約百五十臺にして每日平均三十臺許り流下しつゝある由なるが其木筏流下の盛時に及へば約五千臺の繫留を見るべしといふ

●州外警察組織變更の說

後藤男は滿鐵總裁にして又都督府顧問を兼ぬ故に今次の視察其目的鐵道の情況に在るは勿論なりと雖も又兼て沿線警察上の狀況をも視察する由にて歸連の上は州外警察の組織に多少の變更を見るへしといふ

●岡部領事の新義州出張

韓國事件の爲め朝鮮內地不穩の狀あり何時暴徒の蜂起するやも圖られざるを以て岡部安東縣領事は廿日新義州へ出張せりといふ

●黑龍江鐵道管理員養成所創設

黑龍江に於ては新愛鉄道に要する管理員を養成する目的を以て省城內に鉄路肆習社なるものを設立したりと云ふ

●鳳凰城開放と書記生の出張

鳳凰城愈々開放と爲れるを以て右に關する用向を帶び在安東縣領事館野口書記生は去る二十日鎭道台と共に同地に出張せるが安東縣米國領事及び稅關長等も同日鳳凰城に赴きたりといふ

●奉天輸入の人參

奉天輸入の人參は每年約五万斤に及ぶ由なるか其產地は主として通化懷仁地方にして其輸入せられたる中に特に一等品に屬する物は更に之を南淸地方に轉運し二三等品は總へて奉天附近に於て消費せらるゝといふ

●正隆銀行の支店設置

這度大連稅關開始に就て正金銀行と共に海關稅金取扱の許可を受けたる當地正隆銀行は前月末或る一部の中傷に依り一時多少の行惱を生したる由なるか幸に稅關長等の信用を失墜するに至らす豫期の如く本月一日より同地に支店を又金州普蘭店に出張所を設置し各店員を派出せしめて引繼き業務を執り居れりと云ふ

●露國奉天領事館巡查

奉天露國總領事館にては追々居留露國人の增加と共に同國の所謂東洋ゴロなる不良の徒の入込むものも少なからず之が取締及犯罪者ある時は寬城子迄の護送をなす爲め近々十三名の露國巡查を常置する筈なり。

●遼陽の道路改修

滿鐵の附屬地なる遼陽西門外の道路は愈々改修することに決し技師をして目下測量せしめ居れりといふ

●三井の滿鐵運賃後拂

三井物產會社各出張所よりの託送貨物は昨二十五日より總て運賃後拂として取扱ふこと丶なれりといふ

●奉天魚市場の總會延期

奉天魚市場の株主總會は去る二十日開會の筈なりしも都合により來月五日に延期せりと云ふ尙今後は資本を增して大に擴張を計る由

●哈爾賓の醫術開業

哈爾賓に於ては目下在留邦民已に六七百人に及ぶも未だ眞正なる醫師の開業を見ざるは在留民の均しく遺憾とする所なりしが今回當地森病院副院長として令聞ありたる醫學得業士長船郁太郞氏は同地に於て醫術を開業すると爲り已に一兩日前家族携帶哈爾賓に向け出發せりといふ

●牛莊競馬會の設立披露會

豫て滿洲馬匹の改良を一面內外社交上の機關たらしめんとの目的より當地に競馬會を設置せんとて來營せる山田義之助外二氏は過日來切りに官民の間を奔走中なりしか到る處多大の歡迎と賛成とを博し已に領事館の特許も得又敷地の選定をも結了せしを以て一昨夜其披露會を旭ホテルに開き祭道臺窪田領事を始め民間側は東永茂東盛和西義順英商ブッシュ、ベート及平岡天春岡部達邑山本の諸氏を招待し盛んなる宴會を催せりと云ふ因みに同會は來る十月假競馬會を開き明年よりは春秋二回定期に開催する趣なり

●深見頭取の歸營期

春來資金募集の爲め歸京中なる當地正隆銀行頭取深見十八氏の消息に就ては其後屢々耳にする處なるか其應募成績も極めて良好にて澁澤、馬越氏等の如き有功なる實業家の後援あり旁々此程首尾能く募集結了を告けたるを以て去る十八日是等の報告會を兼ね出資者の重なるものに會合を松方伯邸に開きたる由なるか右に就き同氏歸營の日も近々の中なるへしと云ふ

●本日の招魂祭典

愈々本日は招魂祭典の當日なり各發起人等は昨日來東奔西走の姿にて諸般の準備に忙はしく碑前に於ける各餘興の場所等も昨夕刻迄は大方出來上りたる樣子なり此外藝妓手踊連は昨日特に營口座に集りて總浚ひを爲す等前景氣は奈何にも盛んなり是にて本日の天候さへ放晴ならんには今回の祭典は本年に於ける始めての好景氣を見るとなるへしとなり

四方山の話し（名士の書）

横井時敬君が揮毫に趣味を持って暇さへあれば古帖に對して習字をして居るとは人の知る所である▲元老側では松方伯が大の熱心で是は太師流に力を注ぎ日外京都から上京して弘法大師第幾世かの入木道直傳某に就て餘程勉强をした▲所が其入木道直傳先生が案外書は不味いので態々上京しても豫想ほどには弟子も出來無かつたと云ふとだ▲伯は好で大字を書く中には隨分甘い文字もあるそれは今迄習つたとのある字て格別甘くないのは始めて書いた字だと云ふとである▲曾禰男も字が好きて是は何流だか知らぬが中々熱心に勉强して居る割合に上達はしないさうだ、伊藤侯曾て曾禰男の字を評して曰く「習へばそれても少しは甘くなるものだな」と、書に於ける曾禰男と伊藤侯とは僅かに弟子と先生位の相違はあるてあらうとの評判だ▲大日本海の海戰以來東郷大將の名が高くなると共に何とか個とか云つて大將の所へ書を頼みに行くものが多い露國の北洋艦隊を一手に引受けて之を粉碎したほどの大將てあるから其位なとに辟易はしない直に承諾されるが併し其れは西島と云ふ大が書くので大將の自筆は少ない▲大山大將も其通りで何とか云ふ人が代筆をする▲之に反して乃木大將は文字は自分で書くさうであるが、詩は中川と云ふ漢學先生が作るので二靈山の詩ても皆中川君の作だといふとだ

一往一來

▲勝賀瀨元（陸軍步兵中佐）一昨日大石橋より來營旭ホテルへ投宿

▲チエー、ピー、サンター（オースメラリヤ貿易事務官）大連より來營旭ホテルへ投宿

▲大山卓爾（仝上）仝上

▲堀三之助（滿鐵技師）仝上

▲戶口茂里（辯護士）昨日來營仝上

●本日　本紙十六頁

◉天氣豫報　自七月二十五日午後六時至七月二十六日午後六時

祝　謹て滿洲日報社創業二週年の盛運を祝賀すると共に

雜録

北京漫録

大川城山

一、皇城

北京は古來遼金元明以來の帝都で、內城外城の二より成る、而して今の內城は明の永樂年間の建築で、幅八間、高凡四十丈、長さ五里程の城壁を以て圍んである、城壁は日本ならは大きな角石で築くのだが、此地にはそんな岩石が乏しいと又煉瓦の製造か早くから發達したので、悉皆灰色の煉瓦て築いてある、

內城は正方形て其正面は正しく南に向つて居る、所謂「南面而稱王」から割り出したのでせう、正面の正陽門以下八門を構へて規模宏大、流石大陸的豪傑の昔か懷ばるゝ、而して內城の中には周圍二里半の皇城かある、大內は即ら其中にあつて一に紫禁城と云ひ、保安殿、坤寧殿、武英殿等の諸宮殿が澤山羅列して居る、外城は明の嘉靖四年に內城の南面に繼ぎ足したる外廓て周圍か四里程ある、

自分は未た南方の都を見たことは無いけれとも支那歴代の帝都は大低此制だらうと信する、我國の京都は云ふ迄もなく唐の長安城を學んだに違ひなからうけれど其皇居の配置、各門の名稱、而して京都の入口が丁度正南に面して自ら皇城に適するなと、彼是思ひ合せて成程と合點せらるゝ節か多い若しも京都の南方か塞かつて居つたならは如何に、山紫水明の地ても決して都にはならなかつたことを自分は茲に斷言する、

二、落日の感

諸君の知らるゝ通り支那の都會は皆堅固の城壁を廻らし、一朝事あらは城門を鎖して人民を保護することの出來得る樣に築いてある、此れて見ても南北人種間の爭奪が如何に烈しかつたことか判る、其昔弓矢の時代てこそ多大の效果かあつたらうと思はるゝ其城壁も文明の今日では大に價値を失ふた、現に前に述べた正陽門附近なども彼の北清事變の際、列國軍に破壞せられ今尚修理中だ、而して其左右に在る宣武崇文の二門名前だけは立派ても、こわれた所か其儘て、樓門なども剝けても更に塗り代へす、何となく落日殘壘を照すの感か起きる、殊に正陽門の右の城壁の上には米國の砲臺かある、尚少し離れて獨乙のもある、共に大內を去る僅三四丁、いざといへば皇居は木葉微塵となる、此外砲臺こそ無けれ、各國皆兵を內城に屯せしめて居る、嗚呼清國の形勢推して知るべきてある。

三、頭小尾大の政治

皇帝と西太后とて共に政を聽き給ふが故に自ら主權は二つに分れ、從つて其下につく黨派も二つ出來る譯た、而して其外に滿人と漢人との政權爭ひがある、こんな風たから迚ても統一の政治などはむづかしい、人は清國の外交の緩慢なのを見て、此れは得意の慣用手段たなどと賞むるか、其實は得意の遣り方でも何でもない、容易に朝議が纏らぬから止むを得す、ぐず〳〵に延ばすのてある、殊に中央政府よりは却つて地方の勢力か强からして內治外交益困難てある地方の制度は例の支那流て各地皆勝手な自治制を行ひ、總督以下知府知州の輩に至る迄其管下を受負ひて所謂「上下交も利を征し誅求飽くことを知らす」の有樣たから儲けるのは獨り官吏て、氣の毒なは人民た、支那の諺に「三年知事を勤むれば三代樂に暮せる」と隨分酷な遣り方てある、たから總督の如きは地方に傲然と構へ込みて恰も藩王の如き勢力がある、往々中央政府の命を奉ぜざるも朝廷之を如何ともする能はす却つて其鼻息を伺ふといふ倒な有樣てある蒙古の如きは決して心から清國に服して居る譯ても何でもない、表面清國の版圖てあるといふ點からして露國の侵略を免るゝ利益かある爲た、而して蒙古王は每年九白と云ひて白馬八頭、白駱駝一頭を献上するのみた、朝廷ては更に數倍の返禮をする、蒙古王は儲けて歸る、此等の理由からして强ひて清國に背くの必要を見ないのた

●招魂祭と紀念日

南來生

營口紀念日に招魂祭とはチット變手古だ否な招魂祭其物は決して變手古な筈はないが營口紀念日に逆襲當時の戰死者を祀るといふのは少々話が聞えぬ逆襲戰死者の忠魂は已に一月に於て祭られたのに今又二度迄も引出しに逢ふとは冥加の至りかは知れぬが稍〻有難迷惑の次第てあらう營口占領には一人の死傷者も無く太平樂を歌つて乘り取つたのであるから其紀念日も亦陽氣に浮かれ立つてやつた方が好かりさうに思はれる併し道理は道理としてたとへ營口が其前年に於て占領されて居たにせよ逆襲當時に於て若し是等戰死者が死を以て之を防守するに非ずば營口が依然我手中に存して居たか何うかの知るべからざるのみならず今日の紀念日亦本日に於て遭遇するとが出來たか何うかも一疑問であらう營口紀念日と忠魂碑招魂祭、決してユカリ緣因の無い訳でも無い吾人は寧ろ此祝すべき吉日に於ても其本づく所を忘れずして今日の成功には必ず犧牲者の存するを追念するは我大和民族の一大美風てあらう今回は偶然の事で招魂祭が紀念日に引出されたが吾人は此動機を以て招魂祭は將來永く本日に於て行ふとにしたいものだと思ふ

祝

●電扇
●電氣呼鈴
附屬品一切
●盜難除電鈴

SS
營口新市街
玉井商店
電話七十番

清酒白鶴
清酒忠勇
味噌醬油酢

祝

●吳服太物●小間物化粧品●洋服附屬品●文房具●紙及帳面類
●はきもの類●金物大工道具●陶器類●塗物類
●疊建具家具類●其他日用雜貨類合セテ三千余種

書籍
雜誌
文房具品　宇治新茶　洋服附屬品
諸紙帳簿　和洋化粧品　其他諸雜貨
營口永世街
大阪屋號
電三二六
第一支店　奉天大西門裡大街
第二支店　鐵嶺城裡鐘樓南
第三支店　營口新市街花園街　電一二三
第四支店　遼陽西門外街

安價
●靴、鞄、帽子、男女洋傘、「シャツ」「ワイシャツ」洋服附屬品、枕鏡、履物、足袋、其他和洋雜貨色々
●陶器、塗物、金物、荒物、宮島產物、會席用器具
世帶道具一切
婦人用小間物
化粧品一切
卸　小賣

H
營口永世街
平本洋行
電話二三六番

確實
●農商務省專賣特許
輕便高尚經濟的嶄新ナル發明ノ良品ナリ
「マッチ」デ火ノ付クスミ
輕便切炭
滿洲一手特約元

紙函入	火保時間	定價
並形六十個入	五時間保	金三十五錢
大形六十個入	八時間保	金五十錢
香入御進物用	六時間保	金三十二錢 六十錢
特別大形	廿時間保	金六十五錢

祝三週年

日本朝鮮白米魁酢
東京澤庵淺草海苔

蜂印葡萄酒味噌乾物
瓢水印味淋罐詰
其他食料品一切

最上醤油 萬

營口永世街 電二二二番

大原洋行

營口元神廟街
大原洋行小賣部
電四〇八番

祝 營口占領三週年
滿洲日報二週年

雜貨商
營口永世街
三友洋行
電話一五四

祝 營口發展第三年
滿洲日報二週年

材木商

塩川商會

（電話八九番）

祝滿洲日報二週年
會席御料理 第三樓

營口座
八月一日より開演
新派春日靜夫一座
請元粕谷

祝滿洲日報二週年
吉辰

大連湖北彩票代賣
中外雜貨發賣
營口西北街
裕和盛號
（電話八一）

南滿鐵道貨物運送
鐵嶺西門外

祝滿洲日報二週年

木材
木炭
板硝子

日陽商會

（電話三一九）

炎熱の候各位益々御清適奉大賀候降而弊館儀大方諸彥の御引立を蒙り日に增し繁榮に赴き候段奉深謝候今後一層業務擴張常に嶄新の技術を採用し御愛顧に相報ひ候間何卒倍舊御光來の程奉願上候　敬白

一ブロマイド　一プラチナ
一セロイヂン　一光澤ピーオーピー
一絹ハンカチーフ及半襟類
一陶器寫眞
一引伸は巾四尺より長八尺まで
一夜間は吾妻式閃光器を以て晝間よりも鮮明に撮影可仕候
一出寫集合等は枚數に應じ割引可仕候間多少に不拘御用命願上候

營口元神廟街
三船寫眞館
電話一四一

雜錄

露國の對滿政策（上）

（奉天總領事萩原守一氏談）

本篇は奉天總領事萩原守一氏が曩に歸京の際東洋協會席上に於てなしたる演說の梗要なり掲げて以て形勢を知るの便に供す

私が考へまするのに一國の勢力――人口的にも或は智力の點に於ても發達するに從て必ず外に溢れるといふことが勢ひ已むを得ずして起つて來るのであります、是は自然の傾で已むを得ぬのであつて、即ち人間の生存競爭といふものに基る所の自然の理法であらうと考へる、我日本の人種は總ての點に於て頗る發達的であつて、啻に人口のみでない、其智力の點に於ても著しく發達的の人種であると云つて宜しいと思ひます從て此人種が必す外に溢れて仕事をするといふことになるのである、其仕事を外に於てする事からして諸般の外交若くは涉外關係といふものを惹起するのであります、就て其外に涉る所の關係……自分の國外に涉る所の關係に付ては色々の面倒が起ります、が、此面倒といふものに付て宜しく自然の理法又は自然の發達的の秩序を守つて行つて發達したならは、必す外よりして妨を及ほささぬ、さうして十分に自分の固有の發達力といふものを伸はすことが出來ると思ひます、夫れて外に對して勢力を伸べると云ふことは即ち他の人の管轄して居る所、若くは主權の行はれて居る所の地域に至つて自分の勢力を延ばそといふことである、從つて自分の領土に於て勢力を伸はすといふことゝは大に趣を異にするのであります例へば臺灣の如き又は北海道の如き我領土に於て勢力を伸べることは私等か最近勤めて居りました所の滿洲に於て勢力を伸へることゝは根本に於て趣を異にして居る、即ち支那の領分たる所の滿洲に於て、或は租借地其他鐵道鑛山に關する利權を發達せしめ又は新に利權を獲得するとかいふことである、從つて此事たるや全く外國との關係である、而して此利權の開發は直接に我殖民の增加に依賴して居るのである、例へば我同盟國たる所の英吉利は最も殖民の術に長じて居る、なぜかといふと先刻我日本人種に付て言つたと同じことて、アングロサクソン人種は非常に膨脹すべき冒險心を持ち海外に出稼をするとか、或は移民をするとかいふ所の天然の發達力を持つて居る、從つて此アングロサクソンの行つて居る所の殖民地を往つて見ますといふと、實に恐るべく發達して居るのである、若し其發達の仕方は日耳曼人種のやつて居る所の仕方、若くは佛蘭西人、羅甸人のやつて居る所のやり方とは全く違ふ、さうして立派に行つて居るのである、各方面の殖民地を御覽になつたならば忽ちに分ることである、其やり方は最も秩序的であつて、又恰も自分の國に於て自分がやつて居るかの如く、安心と且つ愉快を以て生活して居るのでありますと是は實に模範とすへき所のことであつて、日本人種が若し發達力を十分に擴けて行く場合、即ち今日の如き場合に於ては最も模範としなければならぬ所であります

商業地としての長春

▲長春は工業地にあらず又た生產地にもあらず東は吉林府西は蒙古北は哈爾賓に至る吉林全省の物貨吐呑の地にして中部滿洲の一大市場と稱すべく吉林省府を政治的中心とし長春を商事的中心として其の繁榮奉天鐵嶺を凌駕す

▲取引の時季に於て此の地に來集する貨主顧客は實に一万を下らず他日南滿東淸兩鐵道の連絡を見吉長鉄道亦完成するに至らば其の殷賑を增すこと蓋し一層なるべきを疑はず

▲市街の商家は壯宏雄大なる構造にして豪戶富商亦鮮からず今左に重なる商家を擧ぐれば

燒鍋（燒酎屋）
公升合（錢莊を兼ぬ）　人和號　福德號
大成號

當局（質屋）
公升號　裕升號　順升號　福奐德（錢莊を兼ぬ）　萬發號　同和盛（錢莊を兼ぬ）

店棧（問屋其他の大なる店）
東廣順　廣順慶　奐順號　奐隆號　廣順號　順升合（錢莊を兼ぬ）　裕升慶　福奐隆（錢莊を兼ぬ）　司和盛　德昌盛　恒興號　廣增號　同興號　益發合　湧巨成（錢莊を兼ぬ）　湧巨號　世發合　長升店

糧米舖（穀屋）
廣通棧

▲右等の多くは本地人にあらずして山海關方面なる臨榆撫寧昌黎樂亭等の各縣より移住せるものと云ふ而して以上各商店の取扱の貨物は各〻其の本籍の各縣に取引先きを有し營口を中繼ぎ地として輸出輸入をなすものとす

▲各商舖の內最も資金に富めるを升字號和字號の二とす升字號と稱するは前記店號に升字を附する數舖にして主人は牛姓なり和字號と稱するは同じく和字を附する數舖にして主人は劉姓なり其の資力は各百五十万兩以上なり而して升字號和字號は各一家なりと雖も他は合資的のもの鮮からず

▲商人と對坐談話するに當り彼等は皆な營口を根本として大連を言ふものなき以て一奇とすべし是れ同地の輸出入品が從來營口に於て取引きせられ其の永續せる商關係は以て兩者の信用を確保して他人の容易に手を下す可らざる基礎を固めたるが故にして彼の徃年東淸鉄道が不凍港たる靑泥窪を有し而して種々なる手段を用ひながら尙ほ營口の貨物を靑泥窪に吸收し能はざりしは以て淸商の取引きが鞏固なる商關係を有したるを證すべし

▲工業としては一つも見るべきものなし僅かに官營の支那靴製造所あれども廣く輸出品として生產するに至らず鍛冶、車廠として附近地方の需用に供するに過ぎずして製造、指物其他百般土地の需用を充たすに足るものあれども要するに職工たるのみ

▲吉林一帶蒙古哈爾賓其他の商家は同地の問屋の手を經て外貨を仕入れ又た產物を輸出するを以て冬期車運の最好時季は吉長間のみに於ても搬車三千輛を集散し其の麕至する商客は各〻得意の店棧に充滿して取引を爲すと云ふ

▲昨冬期間に輸出せし重なる物資は大豆四十万石豆粕三十五万塊豆油五十万斤なりと云ふ（公議會聞取）

右は大連及び營口に運漕せしものに係り而して吉林に產する茸及木材の如き同地に於て製する黃色の素麵の如き各地に散出せしもの決して鮮少ならずと云ふ

▲同地の昨年に於ける輸入品の概數は大略左の如し

綿布各種	十三万五千梱	七百十万兩
棉花	二万俵	六十万兩
棉糸	五千梱	四十万兩
白糖	二万俵	十六万兩
紅糖	三万俵	十五万兩
氷糖	三千俵	二万四千兩
石油	十万箱	二十万兩
燐寸	五千梱	七万五千兩
連紙 洋白紙 日產	五千梱	十五万兩
海參（キンコ）	百箱	一万兩

▲露人の商業は現下二道溝に於て僅に殘喘を保つ數戶の商舖あれども城內には露人の商店を見ず嘗て露人の經營する二ヶ所の製粉所ありしと雖も今は全く廢絕に歸したり此外又二道溝に於て火酒製造所あれども規模小にして其存在すら支那人間に知られず現在長春に於ける露人の唯一事業としては吉林長春間の交通機關たる快車公司と爲す

▲日本人の商業としては同胞の長春に來り營業を營む者日尙淺く擧げて言ふに足るものなしと雖も商況は全く前者と相反して好況を呈するもの丶如し邦人中の重もなる店舖は三井洋行正金銀行大倉分店にして此の他雜貨店藥舖等數多あれども未だ指目に足るものなし

營口の實業界（十二）

營口煉瓦製造所

▲牛家屯驛から遼河の畔に沿ふて東に數町を遡ると一大煙突が兀として雲表に聳立して居るが是が即ち營口煉瓦製造所で煙突の高が百三十尺翅に營口に於て第一の大煙突であるのみならず滿洲に於ても亦其大いなるもの丶一であらう從て是に伴ふ製造所の設備も亦頗る完備して規模宏大滿洲煉瓦製造所中の第一に居るものである▲元來此製造所は昨春時の軍政署が滿洲に於て未だ品質の良好なる煉瓦を製造するとが出來ないのを遺憾として軍政署直營の事業として尤も完全な模範的工場を造らんとの目的から起つたもので夫を昨年の五月工事の中頃…まだ完成しない中に…目下泰東公司の主任たる森脇源馬氏と及び山本瀧四郎氏の二人が讓り受けて引續き工事を進行して竣成させ同年晩夏の候より製造に着手したるものである▲そこで現在は日本型を專門に製造し支那型は注文に應じ隨時製造する事に決めて居る目下素地（原型）の製造は苦力八十人を使用して一日の產出高が二万個である而かし窯は日に二万五六千を入れて優に餘りある狀態であるし、且は原型即ち素地を總て野天に晒らして乾燥さすのであるから一朝豪雨でもあつた場合には折角出來上つた素地を打ち壞して了う處から今回愈々機械力を以て素地を製作し同時に宏大なる乾燥室をも設くるとに爲つて已に其機械場及び乾燥架も立派に出來機械の取り附けにも懸つて居れば遲くも來月中旬からは運轉するに至るべく同時に晴雨を問ず寒暑に論無く何時ても晝夜連續作業に從事するとか出來るのである▲一體軍政署で設計した同製造所といふのは元々模範工場とする目的てあつたので其竈の如きも目下歐米に用ゐらる丶最新式のホーフマン式循環改良竈てあつて其窯の特色といふのは火力が均一に廻つて千七八百度位の高熱を與へるとか出來るのであるから製品が總て堅牢で能く風雨に耐へ嚴寒に耐へ火力に耐へる事が出來る殊に今回は素地を器械力によつて製作するとに爲つたので製品か總べて均一に行き且つ間斷無く殆ど無盡の供給に應するとが出來るのである▲夫れからもう一つ此竈が特色中の特色新式中の新式といふのは今度乾燥架を竈の周圍に築造するとと爲つた爲めに更に竈中の火力を放散そると無しに乾燥室へ導き出すへき設備を爲したとて是れは我大阪の窯業會社技師長大高氏が最近の發明に係るものであるさうなか歐米諸國と雖も未た此方法を採用するに至らぬさうだ此改修設備が行はれた結果として燃料を非常に節約するとか出來る爲に精巧の品を著しく廉價に賣出すとか出來るさうだ▲目下同工場に從事する日本人は職員を併せて約五十名それに支那人を加へると約三百名に達する煉瓦の製產高は日に普通二万五千平均といふから月に七十五万之を一年に積ると九百万即ち約一千万に近い數は優に之を製出するとか出來る同工場は遼河の河畔に沿うて建てられてあるので四方漕運の便か極めて好い其爲め遠方の需要に迄も應ずるとか出來將來事業をして益々發展せしむるに足るべき好位置に在るのである

祝滿洲日報創刊二周年

大連市大山通二丁目
貴金屬時計
美術品商
萬松號
本店　東京日本橋區大傳馬町

祝
滿洲日報創刊二周年
中元賣出し
來る廿八日より一週間中元賣出し仕り御小賣とも福引を以て大景品進呈仕候間多少に不拘御用命の程奉願上候
但し小賣は五十錢以上御買上の方へ進呈
磐城町赤煉瓦建（おかめ庵南隣）
分商品陳列所
卸部は二階

祝滿洲日報二週年

平圓盤發音機新荷着
日本軍歌、軍樂、琵琶、詩吟、義太夫、落語、講談、長唄、謠曲、常磐津、喇叭、唱歌、其他雜曲種々
支那曲譜數十種
○內地定價ヨリ三割安

○金銀側懷中時計
○寶石入、純金、指輪
○金銀緣眼鏡
○金ピン、金手釦
○貴金屬美術品
○直シ道具元料
卸小賣
近江洋行
大連浪速町（電話四四六）
營口西北街（電話二〇七）

祝滿洲日報二週年

(鐵嶺)

新築披露
今般專業旅館を新築致し家具並器具等新調確實廉價に取扱可申候條何卒御投宿之程奉懇願候追而御來宿之御方樣は前以て御一報被下候得ば直に出迎御手廻萬端親切に取扱可申候
一等 五圓 二等 四圓 三等 三圓
鐵嶺高砂ホテル

旅館 鐵嶺館
火神廟街

會席御料理
西關西區 醉花園

會席御料理
西關西區 新玉樓

煙草卸商
木材及建築材料販賣
櫻街一丁目 渡邊公司

朝鮮白米專業
櫻街一丁目 仁川力武精米所 出張所

土木建築受負
櫻街一丁目 菅原工務所
長谷川辰次郎

運送業
附屬地 北辰公司支店 榊組

銃砲火藥販賣及鐵工場
西門街大街 榊組

輸出入貿易商
奉天松隆洋行
鐵嶺仝支店
遼陽仝支店
大連仝支店

當館半年度末帳簿物品整理ノ為業務休止中ノ處七月廿一日ヨリ從前ノ通リ業務ヲ開始ス
鐵嶺 商品陳列館

旅館
火神廟街 銀洲館

綿布商
火神廟街 穗積洋行

會席御料理
鐵嶺 日の出館

會席御料理
鐵嶺日本街 九洲館

會席御料理
西門外 戎亭

會席御料理
西門外 日鐵
近日家屋增築仕候に付倍舊御引立奉願候

東京生そば
火神廟街日本町 更科

高等雜貨販賣
大阪 西門街 渡邊支店

建築材料販賣
土木建築受負
帝國生命保險
會社代理店
鐵嶺 權太商店

和洋御料理
鐵嶺ホテル

旅館
鐵嶺ホテル

高等雜貨
河內組

木材並ニ板類各種
建築諸材料
疊疊表花莚
門外 則武木材局

雜錄

●歐米名流談

▲トルストイの贅澤嫌ひ

トルストイ伯の日常生活に關した四戒として實行せるものは、酒を飲まぬ、煙草を飲まぬ、肉食をせぬ、實際の入用以外の物品を置かぬの四個條にて、贅澤を嫌ふこと、其國の專制を嫌ふよりも甚しい、去年人の自轉車を贈物としたのがある、彼は之れをも謝絶した、其理由は予に取て自轉車は贅澤物であるとの一點で。

彼の道樂はテニスと象棋て、此二戯は已に黒人の班に列して居る、近年に至て彼は此外製本と云ふ一の道樂を加へた、現に去年の冬期中彼は合計四百冊の製本をした、其表紙も標題の金文字も皆一手でやる、此世界の大思想家の家に行けば丸て一個製本屋の老爺としか見えぬ。

▲ジャックロンドンの奇妙なる掲示

米國文壇の一奇才として、近頃名を成した同人の門前と、戸口に掲示せる文句が面白い。

其門口には曰く

事務以外の訪問客は一切お斷り、ソシテ姑家ては一の事務も採らぬ。

其戸口には曰く

戸を叩かずには這入るな、ソシテどうか戸を叩ひては呉れるな。

▲デボンシャイヤ侯の沈黙主義

「英國人は世界一の沈黙家である、そしてデボンシャイヤ侯は英國一の沈黙家である」との一の諺が出來た程、彼の沈黙は有名なものであるが本年四月、其友の一人が戯れに閣下の一日間に話し玉ふ言葉數は幾許てあるかとの問に對し、侯の手紙だ面白い。君が一日中に話し玉ふ言葉より、先づ無用な言葉悉皆を引去り玉へ、ソシテ其殘りた言葉の中から更に其三分の一を引き給ひ、是れ僕が一日間に話す言葉の實數である。

●吾輩の俳句觀

旅順　不渇生

不學非才吾輩の如きものか俳を論するは如何にも厚顔の至りなるか苟くも斯門に遊ぶからには多少の考慮を費しつゝあるのてある、元來俳壇には新舊二派の區別があり其新舊二派の中にも亦種々の派が相別れて宛かも群雄割據の如き確執を爲しつゝある、之か爲に吾々後進のものは徒らに岐路に彷徨して去就に躊躇するの不幸を免れない、哲人芭蕉の如き或は子規居士の如き人から見たらは其見識の狹隘なるを潜かに噴笑しつゝある事だらうと思ふ、蓋し佛門に於げる釋尊の夫れの如く技流末派の相黨し相爭ふは蝸牛角上の争位のもので畢竟枝葉の小問題に過ぎないのである、此間に處する吾輩の俳句觀は大要左の如くてある

一、俳句は簡潔なる文學なり

文學を藉りて或は思想を發表し或は自然の美を謳ひ或は情を叙ぶるもの一にして足らない、然れとも俳句の如く輕妙にして何人にも遊び易く又時間の經濟的なるは他に其比なからふ、修辭の巧拙想の高低は兎に角僅か電信の一音信有餘の字數を以て其用を爲すが如き何んぞ夫れ簡便にして瀟洒たる俳句の長所は乃ち玆に在ると共に其か至難なる所以も亦玆に存するのである、吾輩の見地より彼の新舊二派を觀すれは、舊派は其長所たる方面にのみ重きを置くか故に寧ろ之を玩弄視するの傾向かあり、又新派は其至難なるを自覺して居るか故に兎角理屈に傾き易い、孰れにも一理あるが其一理たるや乃ち側面的にして到底俳の全身に徹底し得ない、故に吾輩は兩者を折衷して學ふ處あらんと欲しつゝある

二、理論の研究と共に成るへく多く作るを要す

理論の研究は無論必要てあるが是に傾き過きると作句の點に於て自縄自縛せられ何事も爲し得なくなる、作句し得さる俳論は悖德坊主の說教の如くも傾聽の價値かないゝ存在を認めないてはないか作つて而して素より吾輩も文壇に於ける批評家なるもの議論の雄健なるものを推重するからてある既に俳句も文學の一科たる以上は成るへく多く作つて小說の如く歌の如く詩の如の思想界を裨益せんとを希望する、多く作るといふと語弊かあるかも知れぬが駄作の多きを言ふのてはない、而して其駄作たるや否は作者自身には容易に之を判別し難い故に成るへく多く作るを要するも理論の鋭刀に解剖せられんとを要するのてある

三、俳句に對する批評の價値

元來批評なるものは理論的解剖の結果を謂ふのてある、然れとも人の面の異なるが如く各々其見地あるか故に批評の正鵠を得るは容易てない、例へば時に關し處に據り又境遇に應して千差万別一樣ならない、乃ち是れ各自の心機に觸るゝ處を異にするからてある、彼の同一の句にして甲乙丙丁其撰を一にせざるか如き何人も之を知了するところてあらう、若し世に濶達なる批評家の存在するあらは兎に角然らさる以上は俳句に對する批評なるものは到底絶對的のものてはない、唯た洒然として之を傾聽し自巳の參考に資すへく從て之を擯斥するにも及はない、而して吾輩は他山の石として批評を迎ふると敢へて人後に落ちない積た、そんな狹隘なる識見てはないからてある、

四、文辭の修飾と想の鍛煉

俳句も文學の一科たる以上想の鍛煉は素よりなるか文辭の修飾を疎外すへからすてある、想は自然の機微に徹透し文辭は美文の價値を保ち而して始めて人情の琴線に觸るゝのてある、然るに人往々にして一方にのみ偏する傾向あるは實に慨嘆に堪へない、吾輩は舊派てあらうか新派てあらうか更に頓着ない、俳句の眞髓なるものは黨同異伐するか如きそんな卑俗のものでないと信ずるがらてある、須らく古今東西に獵渉して開拓を試むへし決して偏狹自尊なるへからすと自ら確信し人にも勸告したいと思ふ

五、結論

之を要するに枝葉のとは畢竟俳門を賊するのみて何等の益もない、故に吾輩は超然として此渦外に起ち汎く門戸を敲きて研究を爲さんと欲するのてある、蓋し先哲の意見も亦玆に存するだらうと思ふ

日報俳壇

夏七句集

神　孤峯

葉さくらに神馬の眠る宮居哉
神子の袖風楚々として涼しゝ也
神鏡に火垂のひかる野宮かな
はな桐や荒壁おちし神輿庫
神にこの戯れはなし花御堂
鉾燦爛と八阪に神樂聞ゆ也
蝙蝠や神籖をさくる若き妻

釋　醉子

佛体にしたゝか甘茶まゐらしぬ
遲れ來て法話聞かさる佛生會
佛生會の疊さたなき小寺かな
山寺にもの搗くおとや明易き
水を打つ和尚庭掃く小僧かな
佛壇にあけ易き燈のともり見
短夜を鼠のならす位牌かな

男　風生

夏痩の頬骨高し琵琶法師
明易き夜を山科に飛脚かな
燃立つて蚊遣りに黒き下男哉
剃立の頭涼しがれわかき僧
槍持の少しおくれて夏木立
虚無僧も交る川原の納涼かな
關取の胸毛のそよく風すゞし

女　無一

山梔のはな咲くかとや京女
梅干に爪までそめしをんな哉
かこち言蚊遣りにむせる女哉
蚊やりしてマチの箱張る女哉
打水やちさき手桶に姉いもと
夏やせをうらやむ下女か噂哉
蝙蝠やおんな集る最合井戸

身体　竹子

からだ中南京蟲やほとゝきす
爪長き僧か燈下の書夏かな
釣しのぶ腕に水のつたひたる
朝の床飛ふ蚤に指ゝ及はざる
舟涼し足ぶらさけて水なぶり
凉さや顔にかぶさる蚊帳の風
羅や濃き口紅の京をんな

戀　野梅

われとかん粽に紅のつく恐れ
竹夫人今辨慶に參らせよ
風鈴や美人簾影に見て過る
紫陽花や遂に浮氣の水淺黄
後朝や蚊帳を出るの恥かしき
夏さむき貫の刀狂ひけり
夏痩や死ぬ程やすき身にゝす

廉價販賣
和洋雜貨商
帽子シヤツ　洋服付屬品　香水石ケン　くつかばん　其他いろく
大連市磐城町二百四
㊅髙橋商會
浪速町大山勸商場
㊅髙橋支店
旅順名古屋町
㊅髙橋支店

●日本官煙廣告●

◎貴顯紳士向
▲オリエント（純粋トルコ原料葉）　十本入包　二十包入ボール函

◎日本特產品
▲敷島　▲大和　▲朝日　▲響
二十本入包　二十包入ボール函

◎香味精選品
▲スター　▲チエリー　▲リリー
▲ロンダライフ　▲ゴールデンバツト
十本入包　五十包入ボール函

◎清國向特製品
▲ハネーヒー
五本入包　五十包入ボール函

右ボール函裝置は御進物用に最も適良なり

販賣處
大連　營口　遼陽
奉天　鐵嶺
長春　吉林
其他到る處にあり

日本官煙專賣所
東亞煙草株式會社大連支店

宮門抄

六月十二日　內務府八旗兩翼値日無引見　新授江西贛州府知府周邦翰謝恩　外務部知府楊儒明謝恩　掌儀司奏十五日祭奉先殿遣貝勒行禮

六月十三日　召見軍機

上諭恭錄

六月十三日奉

上諭吳元愷著調補江南狼山鎭總兵浙江定海鎭總兵著邱開浩調補欽此

旨正黃旗蒙古副都統著都凌阿署理欽此

祝辭

祝我社報之二周年

夫當此競爭劇烈之二十世紀中。最能增進人民之幸福。保全國家之利益者。宜莫報紙若也。我滿洲日報。自開辦以至於今日。已旣歷周年。此兩年之中。滿洲之一方面。實受其鼓盪之動力。而振刷精神。增長智慧。羣曉然於天行人爲之關係。而存優勝劣敗之思想。嶄然露頭角。思欲五洲萬國。爭馳驟於劇烈之舞臺。至其傲於彰善癉惡之直筆。爭自濯磨於君子小人之分途。儼然具個人自治之資格。而爲國家立憲之基礎。是故能助社會人民之進化。而本社亦隱然於社會一方面之勢力。爲輿論歸宿之地。而可代表之以上達。爲行政機關之紐。而可提倡之以下行。減捐稅則首倡其說。疏遼河則獨伸其論。他如內治外交。凡有關於國家人民之利害者。知無不言。言無不盡。雖擿奸發覆。似近於苛。匡名翼教。若類於戇。難免爲不肖官商之所忌。然言之者無罪。聞之者足戒。而本報玉成之苦衷。正不得因之而自艾。夫亦惟盡本報之義務。冀有利於人民社會而已。故首起衝突於某員。繼惹風潮於商會。然卒於本報之名譽無損。而聲價愈增。蓋報之不足以動人之怒氣者。卽不足以動人之感情。是謂無靈感的報紙。去人之閱報。將以有所觀感而興起也。而以不足動人之氣。雖尊若稽古三萬言。字字璣珠。言言金玉。究何補於人世盛衰之關係。故本報不憚爲嫌怨之府招尤之的。而宗旨所存。卽天下視綫之所集。亦卽天下精神之所注。而本報之功用於以宏。而本報之利益於以大。況以吏治因循。民生疲敝之東三省。而營口又幾經日俄之佔領。若官若商若民。久無國家之觀念。安有忠愛之熱心。英雄豪傑之氣。已盡消磨於服從依賴之間。得有如本報者。之大聲疾呼。頓驚睡魔。遂油然而生忠君愛國之思想。卽本報雖無令人必行其言之權。而本公理以發爲議論。秉直筆以記載事實。詞嚴義正。而官民不得不視之爲準繩。譬猶絕代之佳人。佇立中途。早爲四方圍繞萬目環視之中心。是以營口之知與不知。無不懍懍焉。心目中有一滿洲日報在。縱本報不居其功。而正未嘗無大造於營口也。過此以往。更當精勵焉。勉强焉。以爲閱報諸君子前途之希望云。爰祝曰。

偉哉我報。議事本乎公理。大哉我報。記言法乎春秋。挽狂瀾於旣倒。復吞全部之滿洲。洋洋乎聲滿大地。蕩蕩乎名震寰球。夫豈惟造福於營口。開利於滿洲。敢祝我報之億萬斯年。漫道今日爲創刊之二周。

東京電報

（華曆六月十六日）

●日韓協約成立之內容　日韓協約成立其內容之條條授伊藤統監絕体之權力雖韓皇非伊藤統監承認不得與斷國是韓國官吏日後採用日本人云

中外要聞

●郵傳部近聞　陳尙書接視郵傳部尙書以來實力整頓奏請革職之前車務監督某觀察係閣人與尙書有鄉誼而尙書到部後乃首先參劾之故京中官場咸云陳氏之撤公絕不關顧情面云

●外部近事　外部派駐美參贊容揆赴美動物學會外部飭楊樞告日外部爲簡李家駒使日事

●澤公擬除地丁積弊　度支部整頓鹽政各節業誌本報聞尙書載澤現又提議全國地丁所取于民者甚微而民每籍口賦重爲詞其中必有隱情且各縣地丁之額向沿百餘年豈能毫無所增其中花戶把持州縣吞沒均所不免政應整頓以裕度支惟一時若無着手故未發表

●徐督請辦關外全境礦產　聞初六日欽差大臣徐世昌電商政府擬與某國合資開辦關外全境礦產以興利而阜民生慶邸醇邸均不謂然現已電飭緩辦

●鄂督請開九等爵捐　陸軍部因開辦水師事經費無著鐵帥頗深焦灼日前張香帥又有電到京請開九等爵捐以爲挹注至公傅則不贊成鐵帥以事體重大故尙躊躇不決

●錄新皖撫馮帥致政府電（爲恩撫被戕事）北京外務部軍機處鈞鑒安撫恩銘今晨被巡警學堂會辦徐錫麟率外來死黨轟擊數傷延至未刻出缺徐錫麟拒捕刻已就獲據供係革命黨首蓄志十餘年先殺恩銘後殺端方鐵良良弼並無別故等語徐錫麟未便久稽顯戮立卽在撫轅前正法援張文祥刺馬新貽辦法剖心致祭恩銘口授遺摺另摺代呈除將印信封存外所有安徽巡撫因傷出缺應請簡放請代奏安徽布政司馮煦肴

●徐錫麟刺殺恩撫餘波　徐錫麟本定前月二十八日閱學生操恩撫台提前二日徐手趕辦不及收支委員顧松反對之徐恨極當場顧不學死顧未死時大叫會辦謀反會辦謀反衆耳皆同是以此案指首主名而朝廷猶疑顧松手有短鎗恐係同黨今恩撫江督娘力爲之辯白云

徐錫麟家在紹興東浦田產値十五萬城內所開天生綢緞莊太生燭鋪均已嚴封徐妻家許氏家貲約數十萬亦被株連

●紹興學堂大風潮　紹興大通學堂事探悉大通體育會女教員秦　爲首又呂鴻林　紹康等謀定六月初十左右起事所約告　縣之人聲張一萬餘名初四日官得信督兵兩隊圍捕體育會及　縣公局皆拒捕不能取勝秦就擒當卽電奏正法搜得後膛鎗廿九枝子彈數百　縣亦已由提督派兵前撫察報如此也

●革命黨孫汶有到潮州之一說　廣東潮州府李太守近接水陸提督李軍門電飭略謂頃據汕港探員報稱孫汶現在潮州將謀不軌並聞軍火已運到總於潮陽之大山係有小河可通者惟山名未詳亭語查係進口蹤跡飄忽旣十探報　潮自應嚴請密飭各營縣認眞偵察有無孫黨蹤跡查明有無小河可通　日前派員搜捕稍疏懈應希轉飭各紳團認眞會捕云云

●安慶府亦傷斃　皖撫之變安慶府當時亦受重傷聞傷甚重日內恐有性命之虞云

●天津擬烟膏專賣　烟膏專賣係仿照日本治臺灣辦法官爲專賣烟膏有義天津自籌官捐後聞日內又會議烟膏專賣辦法刻已調查一切擬章程至何日實行則尙無所聞也

●陸軍三鎭因遲餉幾至兵變　駐紮保定陸軍第三鎭現已成軍三年例應退伍各兵寄家及自帶之贍餉均應交給本人因該鎭正月間方由直督交部此項贍餉各由北洋餉局經手存此時亦應由北洋餉局散放故近畿陸軍各鎭餉局以此事應歸北洋辦理不甚注意旣未能先事籌備而北洋餉局又以該鎭早經交出責任已卸贍餉一層餉未早日計畫彼此延誤直至臨時始由近畿餉局將贍餉淸册咨送北洋餉局其贍餉數十萬多至四五少者十數金約計七八千份須逐件分包斷非數日所能辦齊又淹遲十一日該鎭已奉　旨調赴東省兵丁均不願往又因不發贍餉於是擊鼓譟閙不應操亦不聽號令離營恐赴柳葉廟集合一齊勢將譁變上統制標隊官之命令一概不行事機不可收拾鳳山護之飛電陸軍部歸罪於北洋餉局鐵尙書卽轉電袁宮保並嚴飭北洋餉局迅速發贍餉袁宮保得電大怒當將贍委員某某撤委一面由北洋餉局派局員處二尹吏田攜帶贍餉銀兩星夜赴保定處二尹幸於辭令到省後卽赴各營演說始發贍餉並向兵丁極力勸慰將遲散贍餉困難之原因逐一解釋各兵始得贍餉復經勸解始欣然相率歸隊說者謂此項贍餉若再遲到一日則大局幾不堪設想云

●盤蛇驛河工告成　盤蛇驛鹽務總辦蘭觀察祖龍奉前軍憲趙次帥札委辦理該驛河工數月已於日前竣工昨聞督憲委派鄭觀察蓀　前往驗收河工矣

●醇親王將補軍機大臣　醇親王係派在軍機學習行走現在有實授軍機大臣之消息

●粵請懸掛聖諭廣訓　某侍御摺請通飭各省大小文武官員衙署以及各學堂內一律謹將聖諭廣訓一篇作爲楹聯懸掛藉端風俗

●兩宮注意海軍官　聞兩宮前諭鐵尙書云海軍事宜薩鎭冰尙稱熟悉可與之熟商又海軍司正使一缺應詳愼擇選不得以不知海軍之員補授云云

●孫欽使請欵修署　出使德國孫寶琦氏請欵七千兩修理使館

●條陳鐵路利弊　御史葉芾棠對於各省鐵路利弊十二條宜嚴加整頓　旨郵傳部知道當日片交

●滇省需才孔亟　滇省地處邊遠需才孔亟滇督此次因取中舉貢多分發各省補用請敕吏部增掣籤枝速飭赴滇差用

●紀新辣開埠事　張蔭棠抵江孜擬調稅司張玉堂隨赴新辣議開埠章程並請外部咨赫德速飭遵照以吳梅生暫替稅司藏官多畏印熱且多未種痘雖力勸種痘願往者不多

●美國海軍之調查　最近調查美國海軍兵力計有一等戰艦二十七艘共二十六萬五千噸內一萬六千噸者八艘一萬五千噸五艘一萬三千噸一艘一萬一千四百噸一艘一萬二千二百噸二艘一萬一千噸一艘一萬一千五百噸一艘一萬一千三百噸一艘一萬零二百噸二艘「內有一萬六千噸二艘正在建造」艦備十二寸炮八尊至十炮」一等戰艦及海防艦六艘共二萬二千五百噸一等巡洋艦十五艘共十八萬六千六百噸「速力皆有二十一節間有四艘有六寸炮四尊六寸炮十六寸炮十六尊」二等巡洋艦三艘共一萬零六百噸」速力皆「十三節」三等巡洋艦十四艘共四萬九千噸「速力自十八節至二十四節不等」總共美國軍艦九十九艘九十八萬七千噸此外並有驅逐艦二十八艘航洋水雷艇十艘潛航艇十二艘補助艦「商船十二艘「最大者一萬六千噸小亦二千七百噸」其編成艦隊如左

北大西洋艦隊　北大西洋沿岸至西印度

南大西洋艦隊　亞非利加沿岸至南美之東岸

歐羅巴艦隊　歐洲

亞細亞艦隊　絕東

太平洋艦隊　南北亞美利加之太平洋沿岸及濠洲以布哇及舊金山爲根據

●粵路公司特別大會　廣東粵路公司初一日又開特別大會到會者只數百人仍由議長主席兩相開議先宣佈譚吉堂提議一案其大意謂各股票各塡寫堂名記號此須登報佈告更改爲　名方合選舉資格間有未經改換者准於初二日未議之先請各選舉股東代爲投報將股票呈監察員並由議長加蓋圖章標明人堂作實又獻議總理將選舉票塡寫二四名字各議諸君如何取決衆議一律作廢隨宣佈議案八款至晚散會

●粵路股東大會議長誓詞　廣東粵路公司六月初一日開股東大會議長夏揚生等豫撰章程是日開會之始先行當衆宣讀其誓文如下　維光緒三十三年六月二日爲粵漢鐵路正式選舉總協理之期議長夏揚生朱白乾譚吉堂李石朋等爲衆所推謬勉從事深恐立法未善無以副衆望謹以香花寶燭爲以告於皇天后土之前曰夫路得人則成失人則敗成敗之機在此一舉故來賓雲集地方官吏惠臨凡有所監督而察之者典至重法至嚴但揚生等主持會事一秉大公但祈選舉之得人非爲阿私於衙好如有扶同作弊故爲抑揚致負股東付託之專當受神明之殛怒皇天后土昭鑒在茲　惟虔誠伏祈降格

●黃岡善後近聞　汕頭函云黃岡匪平善後情形已迭報告矣惠潮嘉道沈觀察五月二十八日又仝裘防廳趙右戎率兵親詣入澳井洲等處點閱團勇每名獎給銀牌一面又在井洲觀察世次黃鎭與匪交鋒戰地至初一日午始回黃岡並帶在汕拿獲著匪余亟爐一名

裘防廳趙右戎初一日率兵行抵海山所理淸鄉事宜

九月十九日早有某弁帶兵八十餘名由陸入郡又有數十名一船　郡初一日早有某帶兵數十名遵陸入郡因豐順縣屬有槍械鬭等事故件辦也

沈道往井洲時適本省巡防船及英國遊歷船又至海口黃中復起謠言是午沈道回黃岡知卽令退出以免人心搖感

●暗殺大官　文匯報得倫敦初八日電云俄國的夫列司地方消息謂前該地總督阿立哈瑞夫卽遼東總督阿力窘夫及其夫人並大將格立鮑夫及一兵均於的夫列司市街被人拋擲炸彈擊死

●山本大將到美國情形　紐約來電云山本大將來美時大惹世人之注意日下所喧傳日美戰爭說亦殆將消滅矣本月十日各新聞記者訪大將於旅館大將說新聞記者當重負任暗戒美國人間之輕忽記者等請大將將相大約謂之曰君等若爲和平盡力則應之否則辭爲衆大歡服一日午後爲山本大將開催歡迎會於旅館阿斯士耳號拉塞耳氏述開會辭山本大將爲演說述日美國交與過去歷史同將來亦共保和平其他有大西洋艦隊司令長官伊武安斯將軍前鎭守府長官哥克蘭舉德佛德將軍等痛快演說皆說日美戰爭論無根據攻擊新聞記者等之無責任保證日美決無如此不祥之事山本大將十二日往訪大統領於阿伊斯答別入夜亦有歡迎會

●朴永孝任官　久在日本亡命韓客朴永孝曩因特赦回國今次任宮內大臣

●華使發問貽笑　荷京海牙初二日電云萬國平和會議宣戰問題爲世界上所注意之事法國提議該問題之議案已於本日會議日英兩國委員均表贊成此案似可議決會議之際中國委員忽於席間發問一國宣言開戰他國如何應之云云在座諸人以爲奇問無不笑之云

●美艦失事　字林西報得倫敦初七日電云美國大戰艦喬其號在撥洛文司塘分打之際敵樓有一八寸徑砲炸裂傷十七人已死五人

文匯報得倫敦初八日電云美國兵輪喬其號忽遭炸裂之後共死八人當有六人亦已不治先是該艦提出二百彈一枚預備裝入砲內有兩水兵瞥見將炸急卽警告而敵樓中人已不及爲力矣

●公使被逮　德文報得柏林初七日電云前駐義大利公使內雪氏已於羅馬就擒

●備迎日艦　德文報得柏林初七日電云日本巡洋艦筑波等號將至巴頭司而方該處已預備歡迎矣

●德皇定期閱操　德文報得柏林初七日電云德皇定於西八月一號赴司文墨特地方校閱海軍大操約須數日力能操竟云

○仲買人募集
當取引所仲買希望ノ御方ハ來八月十日迄ニ御申込相成度候也
追而詳細ハ當事務所ニ就キ御承合アリタシ
明治四十年七月二十三日
株式會社大連取引所

●雜木角類 ●松杣角類 ●挽角類 ●眞極類　各種
大連浪速町二丁目
小樽木材株式會社大連出張所
所長　野澤貞次郎

●挽材 ●大井床廻造作品一切 ●建具 ●疊類 ●薄緣
材木板商
早野支店
大連市浪速町四丁目　電話(二〇七)
大連市美濃町八三號地　七九八一

營口忠魂碑祭典寄附金者名
一、〇〇〇　關東公司
一、〇〇〇　香取敬義

●稅關訂期開辦日期　九站與滿洲里設立稅關徐制軍電請外務部與俄俟俄核定日期已誌前報日前徐制軍接到外務部電商試辦章程四條於互換屆會之日昨實開關期因特札飭本埠關道遵照辦理矣

●紀哈埠郵政局情形　傳家甸中國郵政局設立兩月有奇雖每日寄信者陸續不斷而無如本埠民人知識不甚開滿皆以郵票只用銅元二枚即能轉達中國全省咸疑之不肯深信又兼掛號信件須有戳記方可館出因此商家更爲恐懼不知郵局如何用意設將郵政章程演成白話告示俾各人易於明瞭中國郵政定可日形發達云

●提議武備限制之問題　希列海牙保和會之英代表昌布雷君預告該會長涅利士夫君云余擬於日內提議武備限制問題以預備各國代表員之會議乃涅利士夫君將此言照會各國委員各國委員等隨即電致已國政府請示辦法聞英國提案之內容略云各國武備務必遵守第一次保和會決議之貸且各國限制武備實爲現下急務故各國宜時常注重以講究其辦法

雜事

●銀洋昂貴　營口兌換銀錢之價目皆以銀洋每一塊一日如每現錢九吊即換銀洋一元近來銀洋與糧貴而現錢則行之諸隊銀根太緊商業蕭條之際至五

●新價售貨　本埠商業蕭條由來日久延至今日更不堪言狀茲有衆商店本大宣不支者則大減價售貨以作廣銷之計云

●利濟群生　本埠小押當鋪近來已將三十分利息改作三分如五日抽贖當物則以二成扣留五日外則取利三分一唱百和鳳和堂假斯氏慶蘇其困亦保民之一端也按此事本報前曾揭載其利害諒必堪爲官用調劑之手段於其間不外奸商嗜利豈肯遽斃三十分之利息而至二分乎

●蔡觀察之春番樓赴宴　春番樓者日本之藝妓飯莊也近有人招蔡觀察飲其中有一名之藝妓娼妓爲之侑酒座客約二十餘人頗極一生之樂衣闌更深主人辭客遂各升車以去云

●白秀亭振興醫學　白秀亭者恒仁醫院之醫士也於醫學之研究頗深今個韓口醫手害人擬立醫學研究會凡營醫得入會研究利病庶不致有徒手殺人之狀特函來一說容當刊之以問諸當道而或表贊成之情也

●香烟斃命　營口小紅樓之某女伶實爲優孟中之名角也近來竟吞服鴉片烟膏思欲斃命不幸已作駕鶴之遊

笑林

●產子二則　某甲妻舉一子喜不自勝凌晨奔岳家將告妻母入門見齡妻弟問來何早甲曰昨宵爾姊產一子特來告爾毋耳妻弟駭曰不可不可阿姊去年因生子遭吾毋鞭撻險些死去頓忘之耶而復蹈前轍乃爾急歸勿宣免老人家動氣彼又徒受苦也甲愕然敗興而回

▲又　某婦初胎心竊苦之問於姑曰嬰孩驅從那裏入便從那裏出還不知消麼婦應曰兩處都有入呢姑嘆曰該死該死可謂父子同是一流人矣

昇平茶園

十七日早演　全家福 傳連吉　荷珠配 小靈芝　三案害 王ォ芳　除三害 小保珊　嘉興府 宋ゝ奎　對銀盃 小金祿　算糧 小金娃　拜壽 鐵公雞 張萬順

晚演　全班合演　大獻瑞 傳連吉　定中原 小靈芝　聯明珠 小保魁　白良關 小春來　大伐子都 小榮祿　忠孝圖 小金娃　東宮掃雪 張萬順　沖環套

船　開　日期
北溫○　十七日午後　龍口
平州○　十七日午前　天津

十五日行情
曾水 七十五兩 / 洋鈔票 七十六兩 / 鳥豆餅 七六六 / 豆油 十兩五 / 青豆 八五 / 火車元豆 八七 / 白眉豆 九二七 / 小白豆 無貨 / 大白米 六九 / 裕德清水 一四六 / 瑞興套布 九〇 / 同興宏尺布 三五 / 正隆高布 二二 / 一六老金龍棉紗 無行 二一五

河　手票 七六六 / 羌帖 七五五 / 現銀 六〇 / 豆餅 一〇三 / 棧元豆 九二 / 黑豆 八二五 / 載元豆 無貨 / 吉豆 九五 / 紅糧 四八 / 小米 六八八

營口出帆廣告

日本郵船會社瀛船出帆
●旺洋丸　三十日午前五時出帆大連神戶橫濱行（御乘込相成度候）（御乘客ハ前晚七時迄ニ御乘込相成度候）
●山東丸　三十日午前五時出帆太沽芝罘仁川釜山長崎門司神戶行
（仝上）

乘船切符發賣ハ出帆前三時間迄
未明出港ノ分ハ前日午後五時迄

營口代理店　旗昌洋行（電話一二六番）

瀛船營口出帆
●神耶山丸　（營口大阪間定期）
●賴郁丸　（營口大阪間定期）
●音羽丸　二十七日入港豫定
松茂洋行　電話（五二、五七）

瀛船出帆廣告
●萬成源丸　（營口龍口天津間定期）
●萬歲丸　（營口芝罘間定期）
●長柄丸　二十八日天津行
代理店　東和公司　電話一〇番

大連出帆廣告
日本郵船瀛船出帆
●旺洋丸　八月一日正午神戶橫濱行
●相模丸　八月九日正午門司神戶四日市橫濱行
大棧橋ヨリ發船可致候
日本郵船株式會社大連出張所（電話二一〇番）

大阪商船會社瀛船出帆
●開城丸　二十七日正午門司神戶大阪行
●鐵嶺丸　三十日正午門司神戶大阪行
●信濃川丸　三十日午後五時仁川長崎行
大棧橋ヨリ發船可仕候
大阪商船株式會社大連出張所（電話一二〇番）

牛莊郵便局爲替貯金
金銀受拂相塲　七月廿一日ヨリ七月廿七日迄
一　軍票又ハ八匯銀壹圓ニ付
本邦通貨　金壹圓○貳錢五厘
電話問合ヲ謝絕ス

資本金貳千四百萬圓
積立金千四百五拾五萬圓
本支店出張所
橫濱　神戶　東京　長崎　大阪
倫敦　里昂　紐育　桑港　布哇
孟買　香港　上海　漢口　天津
北京　大連　旅順　奉天　遼陽
芝罘　鐵嶺　安東縣　長春（寬城子）
（電話十番支配人室二百八番事務室）
橫濱正金銀行牛莊支店

營口元神廟街二八六
支配人室三四一
電話事務室二一〇
正隆銀行
總經理人　深水十八
隆記洋行
西營口老爺閣東小紅樓西南側
西分店　電話

營口新世街（電話一五五）
森病院
內外科產婦人科齒科
入院隨時
院長　森矯
產婆　赤垣晴子

和洋雜貨商
大割引券
見よ　見よ
此の券切抜き御持參の御方様には出店販賣品の內御買求めの金高に應じ御好みの品を面白く景品仕り御遠路の御方様には特別の御便利を計り御注文あれば勉強致して御發送仕候
大連市磐城町二〇四
高橋商會

ペンキ塗請負　京阪組
營口新市街（電話三五八番）
ペンキ○ワニス塗材料一式
白絞油○車軸油○及機械油各種
鐵嶺西門外　仝支店

一般患者ノ診療ニ應ス
本日ヨリ新市街新築病院ニ於テ從前ノ通リ
新市街寶來街　醫學士松井萬四郎
營口同仁醫院（電話番號七八）
六月一日

津輕檜大角　八尺ヨリ廿二尺迄各種
仙臺松大角　廿五尺迄小丸太板各種
營口新市街外檜大丸太板
東青堆子河岸
淡谷木材（電二百七十九番）

盛暑の砌何茂樣愈々御清祥に被爲在奉敬賀候降て弊館儀開業以來日尚淺きにも拘らず日に増し繁榮仕候段是れ偏に各位の御引立の致す所と只管感謝に不堪候此上は猶一層奮勵百事改進を怠らず御宿泊料の如きは他店に比し殊に勉強純粹の旅館として飽迄高評を買はさる事を期し候間何卒特別の御最負を伏て希上候敬白
尚大石橋驛御乘換等には從來の通り出張店員萬事御斡旋御便利取計らひ居り候間併せて御承知置願上候

專業御旅館
營口新市街富本町
清林館
電話參百壹番

寰海樓有限公司廣告
本樓前因時勢變遷生意寥落又爲客賬所累從收不易而日用開繳雖經竭力樽節仍屬入不敷分加以房租濶鉅所耗益多若再因循收拾愈難設使虧過額金將何抵補況於有限章程不符故於本月初十日暫停交易淸理一切嗣後辦有端倪抵欠有餘再行報告諸股東按股均攤恐未週知特此奉佈

御料理　日本館
營口新市街花園町
御旅館　日本館
營口新市街千代街
電話百三十番

各種淋症白濁尿道口焮紅腫脹放尿時痛疼難忍膿液漏出或流血水或婦人赤白帶下常有膿樣粘液流出
以上諸症皆既早治經久不愈便成勞疾而本堂新發明之淋丸對于此症有如操左劵之神功乃絕無僅有之聖藥也
定價一圓廿五錢（三禮拜份）
一圓八十錢（三禮拜份一）
三十五錢（三日份）
六十五錢（一禮拜份）

醫學博士某新發見藥
りん病消滅
淋丸
三週必治藥
一回一丸服用効能著ろ

本舖　大日本東京日本橋區小網町一丁目　山崎太陽堂藥局
支舖　大日本大阪市高麗橋二丁目堺筋　山崎兄弟商會
總經批發處　大連浪速町三丁目　日本賣藥株式會社支店　電話四五六
代理店　營口永世街　回天堂三木藥房　電話
營口永世街　東瀛中馬藥房
特約店
營口永世街　淺野福壽堂
奉天小西關　誠昌藥房
奉天鐘樓南　五福藥房
鐵嶺中門　福壽藥房
鐵嶺西門外　佐武藥房
猛家屯　溝上支店
奉天城內鐘樓南大街　延壽堂藥房
奉天小西關　廣濟堂藥房
奉天城內　鶴原藥房
鐵嶺西街　中江草榮堂
其他各所藥店に販賣す　不老藥房

高等旅館
磐城ホテル
大連市磐城町（電話一六七）

今回日本風二階建新築愈々落成仕候間倍舊の御引立あらん事伏而奉願上候敬白

高等旅館　錦館　鐵嶺西門外西區
御料理　錦亭

建築用諸金物
鐵道用ビーダ
鶴嘴ショベル
石工煉瓦左官ナ
亞鉛板洋釘
亞鉛線スコップ
ボールト及カスガイ
鐵工鍛工具

新式獵銃及附屬品
新式拳銃各種

營口永世街
寶圓洋行
電話三二壹番

塗込暖室爐各種
金庫カン〳〵各種

ハンドボール
士工及鑛山工具
大工道具諸金物
一分間湯沸器
アサヒビール
カーネションクリーム
各樣雅扇發賣
ジョレン鋤鍬

雜貨各種
彩票各種
營口西北街
裕和盛
電話八一
鐵道貨物運送

杉丸太　板小割
亞鉛板　平野水
消毒石灰　各種石炭
白米　木炭
洋釘　セメント
營口南本街四丁目
喜久洋行
（電話三一四）

機器鐵廠
川喜鐵工所
營口綏定門街
電話二五一番

新療法
梅毒。婦人科
外科。胃腸病
專門　日本醫院
營口永世街（電話一二七番）
（入院隨意）

內外科產婦人科
入院隨時產婆派遣
永世街輕鐵停車場西角（電話一一八）
院長　橫山春樹
產婆　寺田リウ
橫山醫院

いぼじ
痔核
苦痛なく一二回の注射にて全治す

高等旅館
松葉ホテル
鐵嶺西門外火神廟

料理　一力
營口元神廟街
店主　堀万助

旅館　大和館
營口永世街三十四號
番主　番田九一郎

營口乘車乘船最好の位置（電話一八七）
專業旅館　東京樓
團隊四人樣以上は規定宿料外格安勉强割引可仕候高等御下宿も面儀承候御賄可申上候

菊池醫學博士の御方劑
商標

◎如何に重きたんせきも此一切丸を用れば七日にて直に全快す論より證據御試用あれ
本舖　大阪市南區清水町　牧野秦昌堂

（主効）痰咳、喘息、喉風、咽喉痛、氣管炎、胸痛、肺炎等症來、此藥專治之肺燥之痰臭、及喘息、小兒百日咳、四季感冒、聲音變斷、氣息頻促、痰咳苦眠等諸患、皆因是藥以祛咳、人可免痛苦矣。
（服法）日三回、大人每回用一包、小兒減半均以冷水或溫水送服。

承辦大淸國營口衛生局醫藥器械等物商
回天堂三木大藥房
營口永世街
（電話百九十番）（電話百七十番宿舍）

東盛和
本行在營口創設二十餘年專辦出口餅豆粕等上貨油進口棉絲布疋火柴洋麵糖煤雜貨發行並匯兌銀錢兼代客經理買賣租船裝運事宜營口廣東兩處自建碼頭能泊輪船二艘棧房地方寬大凡泊輪船裝卸貨物極爲便囤貯油豆水麥更爲合宜兼設有輪船名域多利格外從廉能載重二萬担如有欲租船運貨及在棧貨物水脚棧租總理者人　貴客賜顧請到小號面議是荷
東盛和　總理　謹白

柞木　板類　丸太類　各種
電話二二八番
●セメント　●石灰
●苆類　●竹縄
●布告　●人力車

早野第二支店
材木販賣部
小計　六一、〇〇〇
通計　一四八、〇〇〇
副賞品トシテ自轉車競爭へホハイトシャツ壹枚玉井商店ヨリ博多兵兒帶一筋第一樓ヨリ

橡木販賣所
事務所大連伊勢町四十二號地

大連市愛宕町
合資會社 澤井組
電話(一七七番)
出張所 大石橋 遼陽 奉天 千金寨 虎石臺

營業種目
煉瓦製造販賣
土木工事請負
建築工事請負
建築材料販賣
工事設計 測量製圖
大連市羽前町
英組支店
電話二三八番
旅順八島町
英組出張所

祝滿洲日報創刊二週年
土木建築請負業
合資會社 有馬組
出張所々在地 大連 遼陽 鐵嶺 昌圖 公主嶺 寬城子

土木 建築
荒川工程總局
大連市西通一丁目二十八號地 電話
荒川工程支局
旅順市八島町十九號地

汎ク土木建築ノ請負及設計ノ高囑ニ應ズ撫順産御影石一手販賣採堀
大連市奥町二丁目四十六號地
滿盛工程局業務擔當
元北海道官設鐵道建設課長
上川離宮御造營準備事務取調委員
從六位勳六等 佐藤勇
元大日本帝國海陸軍御指定御用商人
李俊

滿洲日報創刊二週年
勿驚二億萬圓
(是れは滿鐵の資本金)
活版印刷其他諸帳簿
大連吉野町一丁目卅一號地
滿洲印刷所
戸水汪

滿洲日報創刊二週年
歐米雜貨

大連監部通一丁目
丸福號
電話(二三六番)

祝
滿洲日報創刊二週年
支那料理
攬勝園
大連市若狹町

營業種目
白米。自釀清酒鶴正宗。
灘河東釀造銘酒稻正宗。
尼崎大塚釀造京印醬油各種。
菓子原料用粉類及砂糖各種。
天然氷貯藏。ジンジヤエール。
シヤンペンサイダー。
朝日。札幌麥酒。
大連磐城町
兒島支店
電話四四九
旅順乃木町
兒島支店

キリンビール

肥塚大連支店

祝滿洲日報二週年
大連吉野町
菅原寫眞館

祝滿洲日報二周年
大連
壽座
電話一二八番

祝滿洲日報二周年
四十年七月廿六日
本店 滿韓塩業株式會社
東京市日本橋區箱崎町一丁目二番地
電話浪花二三八八番
支店 滿韓塩業公司滿洲總局
清國大連市駿河町廿六號地
電話三三二番
出張所 滿韓塩業公司貔子窩支局
清國關東州貔子窩東區
出張所 滿韓塩業公司普蘭店支局
清國關東州普蘭店

江商合資會社出張所
白麪、洋糖、顏料
洋藍靛、東洋車
祝滿洲日報創刊二週年
大連市信濃町二十四號
電話二六七番

雜錄

風塵外の清境
（滿洲の三大樂園）

浪々子

誰か道ふ、滿洲は是れ風塵の巷と、殊に知らず、風塵の中、自ら山明水媚地燥氣清の別境あるとを、若し夫れ滿洲の溽熱、滿洲の塵埃を以て、直に滿洲を殺風景なりとし、沒趣味なりとし、無味乾燥なりとする、抑も未た滿洲を知らさる者の言のみ。

長白の山、滿洲の東南部に盤結して、餘脉四出、其南西に走れるもの、之を千山山脉と爲す。凡そ長白の諸峰、岩嶢叉峨嶸として夙に峻秀神怪を以て名あり、而して千山則ち長白山彙中に在り最も奇勝に富み、風景變幻跌宕、其詭譎を極むる處、山氣清寂、處々甘泉あり湧出す、今其の最も鐵道に近く交通の便を得るもの、之を數へて三を得たり、一に曰く熊岳城、二に曰く湯崗子、三に曰く五龍背、即ち是れ。

一、熊岳城

熊岳城溫泉は熊岳城の東一里に在り、停車場を距る約二十丁、熊岳川の沙磧中より湧出す、浴場の設備は尚未た完からす、唯だ戰時中我傷病兵の保養所と爲れる爲め、軍隊により經營せられたるバラック式浴場を存するのみ、其溫泉宿と稱するもの、亦河岸の一小丘に建てられたる關帝廟を改造して僅に浴客の起臥に便するに過ぎず、名けて溫泉ホテルといふも、名あつて實無し、今年新に一房を構築せる者ありと雖も、思ふに亦大同小異、其設備の全からさる知るべき也。

然れともホテルや、熊岳川に枕し、千山を負ひ、俯すれは清波瀲灧、澄徹沙を數ふへく、仰げば層巒綿亘して、重疊魚鱗の如く、而して前面逶迤帶の如きの白沙を隔て、一望穀野菁々十里に連り、農夫則ち鋤犂を肩にして耕耨に餘念無く、牧童則ち水邊緑陰を趁うて馬牛に飮はしむ、況んや地山に近く亦海を距る遠からす、沙鷗翺翔、山海の風物併せて之を一眸に收むるを得るの、實に熊岳城溫泉を然りと爲す。聞く溫泉附近一帶の地、我邦民の租借地に係る、早晩拓いて一大公園地と爲し、浴槽を新設し、旅舍を增築し、樹を栽ゑ石を配し、天然の風景に加ふるに更に人工を以てし、大に溫泉場を經營するの計畫ありと、思ふに設備全く成を告ぐるの日、即ち吾徒銷夏の好適地たる知るべき也。

二、湯崗子

湯崗子溫泉は海城と鞍山店との中間に在り鐵道線路を距る僅に一丁、汽車窓下近く之を望むとを得べし、頃者溫泉を距る約十丁の地に同名の停車場を再開し、浴客の乘降に便せり、若し風光の美を以て之を論ずる、湯崗則ち熊岳に及ばずと雖も、而も東方一帶千山の支脈、碧翠畫屏の如くに蜿蜒し、北面則ち鞍山の奇勝あり、危巖懸石、礧瑰趣を成し、南の一方則ち曠野豁開、茫として際涯を知らず、況んや溫泉の設備已に半ば成就して、宏大のホテルは建設せられ、玉突臺の備へもあれば樂器の備へもあり、目下孜々として其完成工事に從事す、工竣るの後、高樓雄閣、參差として相連り、綠樹青草鬱然として蔭を成し、中央滿洲に於ける唯一の樂園たる期して竢べしと爲す。蓋し同溫泉や、露國時代に於て已に軍隊湯治所として半永久的の設備を爲し溫泉場としての基礎巳に成るあり、今日の設備を見るもの、蓋し以ある也。

湯崗溫泉は翅に溫泉として價値の稱すべきのみならず、其地實に滿洲唯一の靈場たる所謂千山への通路に當り、之を我里數にして僅に三四里に過ぎず、快馬直駛すれば、一日以て優に往復するとを得、此靈地を訪ふて歸途浴を清泉に取る、快や言ふべからざるものあらん。

三、五龍背

安東縣の西北四里にして五龍背溫泉あり、怪岩突兀として中空に聳ゆる丁香山、鳳凰山を近く指顧の間に揖し、翠綠滴るが如き大嶺小峯層々疊起して其四周を圍繞し、沙河の清流則ち緩く此間を流れて、山容水態、自然畫趣を成す、若し溫泉場の設備を以て之を言ふ、則ち遠く湯崗溫泉に及ばずと雖も、風光の勝は、則ち優に熊岳と相拮抗すべし。蓋し同溫泉の始めて我邦人の經營に歸せるは、去る明治三十七年に在り、戰役中則ち我軍隊の療養地と爲し、始めて宿舍及び浴場の建築を見る、今日現存の家屋は多く當時の遺物に係ると雖も、而も着々改修工事を行ひて、面目煥然、今は安東地方在留邦民唯一の共有的娛樂場と爲り、浴客日に絕えざるを見る。

五龍背溫泉の特色は勉めて滿洲在留邦民の共有的娛樂場として之を開放するに在り、故に公私の團體に向ひては特に割引の法を設け、宿泊料の如きは最も低廉を旨とし、若し自炊を欲する者あらば湯治の暇、自ら其好む所に從ひ、雞羊以て調鼎すべく、鱗介以て鹽梅すべく、悠々其欲する所に自適して塵世の憂を遣るべし。

＊　＊　＊　＊

之を要するに夏時の滿洲は溽熱の滿洲なり塵埃の滿洲なり、之を目して沒趣味と爲し殺風景と爲し、無味乾燥と爲す、則ち然りと雖も、巳に此清區あり幽境ありとする、則ち其稱して滿洲を俗塵世界と爲す、抑も未だ之を求めざるの罪に坐す、今や時三伏の盛暑に際す、市城の熱塵を厭ふ者、去て山明水媚の間に此樂土を尋ね、澡後清風榻下詎ぞ一睡の夢を貪らざる。

雨と支那人（一）

在大連　方外散人

▲支那人は非常に雨を嫌ふ、寧ろ怕れる方た、其原由はといつて別に特種の事情も無やうた、外人の一般に解釋する如く第一は服裝の不完全だが、外にまた道路の狀態と衞生の習慣とそして幾分か經濟上の思想か有るやうた。

▲防寒具の發達は完全なものたか雨具の進步は甚た幼稚た、先づ外套（雨に對する）か無い、油衣といふて普通の長衣の布製なのに豆油か引たのかある。是れは身体衣服の他の都分を防ぐといふよりも寧ろ油衣自身か他の衣服よりも雨に強いからといふ位に使用されるに過ぎない又從つて其丈の價値しか無い物た。

▲次に傘が粗弱だ、これは日本人の雨傘即ち唐傘の本家てはあるが、材料の紙が遙に日本紙に劣るのと、竹が少くて不適當なのとそれに手工が拙いからだ、竹で骨を拵へて白布其他の木綿に油を塗つたのを張つた傘、蝙蝠傘を安直に手製といふ至極不恰好な傘もあるが强風に遇へば一遍に壞れそうて矢張殆ど役に立たぬ、此二種共柄計り長くて、こちらの雨がシッポリと鶯の鳴く春雨流でなく、ジャア〳〵と風交り泥交りといふので愈々間に合はぬ、蝙蝠傘も用ゐるか、安物計それも北清てはまだ少數だ、尤もこれも殆ど顏丈しか防げぬ

▲次は靴だが此は比較的發達して居る靴に皮靴、釘靴、油靴等がある、皮靴は讀て字の如く全部皮製で普通即ち布製に對しての名、釘靴は底に四分位の高さの鐵鋲を打詰てある、油靴は布に濃厚なる豆油が塗てある、外に外人又は上海香港邊の支那人の手て出來る新流行のゴム靴がある、別に蒙古物でタントマーと稱して足部を牛の一枚皮、脛部を豚の一枚皮で製したものもあるか、是れは寧ろ雪に對して造られたもので餘談だ、第一靴底に雪が少しも附着せぬ、第二に至極輕便で暖柔強靭なので主に乘馬兵賊の間に使はれる、此外にも種々あるが一寸奇なのは鞋即ち例の布製の淺靴の底に五分乃至一寸位の高さの木板が張てあるのである、一寸出に使ふ

▲それから前に皮靴の事をいふたが然らば布靴といふものが有うとの理屈が出さうだ如何にも布靴は有る大變澤山に有るが、此れは雨用にはならない、足部が鞋と同じ造りだらうソンナラ其必要はといふと、防寒か主て威嚴といふ事も幾分かある、益々餘談に渉るか官服には殆と決して鞋即淺靴を用ゐない、ドンナ好天氣でも　（未完）

土木建築受負
各官立學校御用達
鐵嶺　日升洋行

美術神代杉額
チエリーオイル
洗濯石鹼各種
其他諸雜貨
鐵嶺西門外本通り　三七商會

和洋雜貨
鐵嶺西門街本通り　高松號分店
卸小賣
昌圖四丁目　仝支店

和洋雜貨
鐵嶺西門外本通り　平本洋行

陸軍用達ラムネ製造
土木建築受負
雜貨卸商牛肉販賣
鐵嶺　河崎組

球戯場設置
鐵嶺彌生館内　彌生倶樂部

御旅館
御料理
鐵嶺西門外大通　彌生館　彌生館

土木建築請負
營口新市街　高橋組　電話九六
奉天鐵道附屬地　高橋組出張所

會席料理
新築落成仕り候
鐵嶺西門外　萬安樓

金物一式
及雜貨販賣
藤飯洋行
鐵嶺支店

陶器一式販賣
鐵嶺西外門角　福藤洋行

大連彩票販賣
雜貨食料品及
官煙販賣
鐵嶺城内　豊盛洋行
仝西門外櫻町　豊盛洋行支店

湯屋開業
鐵嶺火神廟街　大和湯

煉瓦製造
銅鐵賣買
鐵嶺大和町　和登洋行

純粹旅館開業
鐵嶺櫻町一町目　梅の家

呉服反物
及雜貨商
鐵嶺西門外大通り　高松號

米穀和洋酒類
海産物乾物類
鐵嶺西關西區　三玉洋行

會席料理
鐵嶺西門外大街　葛城館

祝滿洲日報創刊二周年

大連著名實業家

呉服太物
正札頑固
大連市吉野町二丁目角
大成洋行呉服店

大連市奥町一六
關東旅館

大連市吉野町三丁目六十一番地
三星洋行
(電話四一八番)

大連市吉野町三丁目
溝上老藥舗

磐城町
御菓子司　岡女庵

呉服商
大連市磐城町三十八番地
(セ)木村清次郎

MS
建築用金物商
大連市浪速町三丁目
前澤洋行
電話二四四

最新最鮮ナル
乾判印畫紙
イルフォード
バーチット
サーシマン
イーストマン
寫眞器械材料
大連市信濃町
樫村洋行支店

夏物新荷着
大連市浪速町二丁目
(金)田川呉服店
大山勧商場
田川支店

和洋酒
諸食料
鶏牛肉類
諸鑵詰
雜貨類
白玉一手販賣所
大連市信濃町(花月席隣)
電話　番
佐々木商店

大連市吉野町
勝利旅館

大坂本店ニテ
仕入元買次致候
夏むき
和洋雜貨　化粧品
旅行具　蚊帳
常ニ内外ノ流行品ヲ取扱居候
大連市奥町三丁目公園前
金大登洋行
大日本京都　大阪　神戸　豊岡

高等仕立洋服類各種
當店仕立物ハ擇テ(?)東京ニテ熟練ノ職工ヲ撰ミ特ニ注文セシ品ナレバ普通出來合服ト異リ形狀ハ勿論裁縫等モ新調品ト聊カ相違ナク特ニ價格ハ東京本店ト同樣ニ大勉強仕候間伏シテ御買上ノ程奉懇願候
大連市伊勢町日本橋際
竹内洋行

◉内外雜貨
◉化粧品
◉エジプト莨
大連市浪速町二丁目
志岐組雜貨部
(電話番號一七四番)

大連市信濃町三十九號地
(中)中島旅館

大阪伊藤忠分店
呉服太物部
丸越商店
化粧品雜貨部
忠泰洋行
大連磐城町

和洋御菓子
銘茶各種
大連市大山通り二丁目
(H)林洋行
(電話四八番)

大連市信濃町
靴製造　春日商店

大連市監部通一丁目
神戸山口運送店支店
山口運輸公司

釀造元伊丹小西本店
醇良日本酒
白雪印
松緑印
大連市監部通二丁目
發賣元　武山洋行

營業品目
白米●硫黄
木炭●石炭
食料品●雜貨
委託賣買
(三)山縣　大連支店
大連奥町
發電略語(三)「電話二二七」

和洋御菓子調進處
並ニ酒保向キ
其他御注文ニ應ズ
大連市吉野町一丁目
商號　紀伊之國屋
(電略)(キイ)(又キ)

仁川日英貿易合資會社
滿洲總代理店
一歐米諸物貨直輸入
内譯
一電氣器械類
一鐵板各種
一亞鉛洗面器各種
一板硝子各種
一重曹
一土耳古紙卷金口各種
一洋酒鑵詰食料品
一ペンキワニス類
一ストーフ
一其他シャツ沓下石鹸香水諸雜貨
一亞鉛板平板浪板各番
一洋釘各種
一エナメル洗面器各種
一苛性曹達
一馬尼刺葉卷莨各種
一エジプト
一自轉車及附屬品
一スプン食器類
一ナイフ
一建築用金物
以上
右卸小賣及約束注文の貴需に應ず
大和商行
所主　稲松松之助
電話二四一番

鐵道輸送業
(マ)滿洲運輸公司
電信略語(マ)又(マルマ)
內地各港及哈爾賓地方へ連絡有
貨物取扱ハ迅速確實ヲ旨トス
總局　大連市監部通二丁目
支局　奉天。鐵嶺。孟家屯。遼陽
營口。普蘭店。蓋平。煙臺
海城。昌圖。四平街。公主嶺
旅順。各驛前

綿花卸商
小袖綿
たしめん
ふとん綿
まわた
中入綿
大連市伊勢町六七
土井商店
百貫目以上の御注文は特別の御相談可致候

◀履物一切卸小賣▶
◀東京製高等履物販賣▶
大連羽前町九七三
履物商
吉岡出張店卸部
大連浪速町大連勧商
履物商
吉岡第二出張店小賣部
大連大山通大山勧商場
吉岡第三出張店小賣部

營業項目
貿易部　穀物肥料其他
委託賣買部　陸海產
精肉部　海陸軍御用達
運輸部　陸海運送
獸骨購買部　獸骨類
屠畜部　小崗子屠畜所
飼畜部　同所内
大連監部通二丁目　電話二一四番
大和商行
行主　稲松松之助
日本郵船會社荷(?)客取扱所
同社船乗客切符發賣所
共同火災海上運送保險會社代理店
日本第一麥酒株式會社
カブトビール大販賣店

大連日本橋前
三重洋行
電話(營業用二〇一番 倉庫用二五五番)

大連信濃町
日本製粉會社
大連出張所
電話二七一番

英米東洋艦隊御用達
船舶食料品供給所
船舶給水取次所
船舶石炭販賣所
其外何品ニ不依御注文ニ應ズ
大連市吉野町一丁目二十四番戸
ハーリース商會

ゴム印専門
大連市奥町二丁目
藤井春陽堂

新作短篇小説

お菊

吹田蘆風

「何うも今本を買つて行つた人は……」と、お菊は物案じ顔に頸を傾げた。然う美しいと言ふ方ではないが、年は十七八でもあらう、色のくッきりと白い、何處となく愛嬌のある顏立ち、殊に潤みを有つた、黑目勝ちの眼がいかにも愛らしい。紺絣の單物に唐棧の羽織を重ねて、雜誌や新刊の書籍を前に控へた奥の帳場に座つて居る。向うの隅には、十三四の瘦せッこけた小僧の、盛に船を漕いで居るのが、時々喫驚したやうに眼を醒まして、どろんとあたりを見廻す。宵の口は一ッ切、隨分の人出だつたが今は大分靜になつた。折々人の餘り乘つて居ない電車が、我物顏に線路を波打つて行く。いつも早仕舞ひの右隣りの足袋屋ではもう戶をがたぴし下ろし出した。向う側の水菓子屋の店には、赤坊の頰のやうな林檎や、藤の花のやうな葡萄の房の景氣よく並んで居るのが、アセチリン瓦斯の光に輝いて居る。お菊は机の上の帳面を繰り廣げて筆で何やら書かうとしたが、亦筆を措いて考へ出した。

「今の人は、何處か見覺えのある人だが何うも想ひ出せない……」と、何處を凝視るともなく、美しい眉を心持ち顰めて考へ込んだが、中々您うと浮かんで來ない。胸の中にはたッた今、西洋哲學史の一卷を買つて行つた、背廣服を着た上品な人が、見ゑつ隱れつしてゐる。五圓の紙幣を出したので、お貼錢を盆の上に載せて渡したが、夫れを蝦蟇口に入れて居る時に、ふと其人の顏を見て、お菊はハッと思つた。其人は並べてある雜誌をづらッと見渡して出て行つて了つた。其時小僧は頓狂な聲で、「有難う御座いまを……」と言つたが、お菊は「有難う……」と言はうとして、何だか咽喉へ支へるやうな氣がして、微かに聲を洩らしたのであつた。彼の打沈んだ樣子、輝いた眼、廣い眼、……何うも何處かで見たやうな、お菊は連りに回想の絲を繰つて居る。何だかぼうッと分かり掛けて來た。旅に行暮れて、畑中の一ッ家の燈が、立ち籠めた霧にほんのりと滲み出したのを見たる心地である。突然溝板ががたんといつたと思つたら、一人の廂髮の女學生が店の前に立つてゐた。

「あの、山村さんの女子日用文はなくッて？」

小僧は急に眼を醒まして、けろりとした顏付で女學生を凝視てゐる。お菊は一寸周章氣味て、

「はい、山村さんのは……」と靜に立つて、後の棚を見たが、又振返つて、「お氣の毒樣、只今生憎と切らしまして……」

女學生は「然う……」と言つて暫く考へて居たが「ぢや、また……」と言つて出て行つた。小僧は「お生憎樣」と欠諸共に叫んだ。電車ががたん／＼と軋つて行く。

お菊の胸に漠然と描かれたのは、十年の余も昔の事である。然うすると、例へば書家が一つの題目を選んで、さて書筆を握ると、あゝも描かう、您ういふ所も描き加へやうと、書情が油然と湧來るやうに、十年の昔といふ題目の下に、お菊は色々の事をそれからそれへと考へた。先づ思ひ起こされるのは、其頃住んでた町、小さな汚ない店、今は居ない嚴しいけれども優しい父親、自分を大變可愛がつて呉れた梅田といふ女の先生、隣りに住んで居た荒物やの美いちやん……それから溫和しさうな或る少年の面ざし、連想は連想を生んで、胸の中は恰て舞蹈でも始つたやうだ。そして其少年の顏が妙に心を惹付ける、先刻の人の顏がふいと浮かんで來る。其兩方の顏を結付けるともなく結付けてみると、何處ともなく似て居るやうだ。今は別人のやうに立派になつたが、何處かに十年の昔の彼の面影が殘つて居る。いや今の方は彼の時の少年に違ひないと、お菊は安心したやうに、ホッと輕い嘆息をついた。お菊の心は尙も十年の昔をさ迷つてゐる、あゝ今でこそ自分が、您んなになつたのもこゝ四五年の事、内は、此町で二とは下らない程の雜誌屋だが、十年も前は牛込の岩戶町に、あるかなきかの小さな古本屋であつたのだ、僅か一間許りの間口で、賣つてる本といつたら、今は能く覺えて居ないが、よごれた草双紙、古雜誌、流行はづれの洋書などであつた、店が小さい上に、其頃は町も寂しかつたから、お客も日に數へる程しかなかつた、一人も來ない事があつた位だ、兄さんは日本橋のとある呉服屋に奉公に行つてゐて、あとはお父さんお母さんと自分との三人暮し、細い暮しの其中でも、お父さんに何よりも好きなお酒を毎晩缺かさず、上げてゐたお母さんの氣苦勞は、まア何んなであつたか知れぬ、お父さんの留守の時などに、店番をして居ると、いつも能く來て本を買つて行つた、大きな眼鏡を掛けた老人さんが「今日はお父さんは留守かい」などと言つて行つた、又或時は竹の皮の中から、金つばを二つ出して呉れた事もあつた。何となく忘れ難い人である、夜になるとお父さんは、看町の何庵とかいふ蕎麥屋の前へ夜店を出して、大抵自分を一諸に連れて行つて、傍へ座らせた、莚の上に蓙を敷き、其上へ古い本を並べて、よりどり二錢、よりどり五錢なぞといふ札を、黑い油煙を吐くかんてらの臺へ立掛け、それから後の方によりどり十錢といふ部も少しあつた、始めの内は通る人や、蹲踞んで本を見て居る人などを見て、子供心の物珍しくもあつたが、其頃から苦勞性の自分は、然んな所に座つて人に見られるのが、余り嬉しくはなかつた。殊に毘沙門の緣日は、常にも增して人出が多く、家々の燈が華やかに輝き、露店のかんてらの油煙の黑く燻つてる中を、人の群がごーッといつて、大波のごとく往きつ戾りつする、その波の往來に、群の一人一人か、ちよこなんと小さく座つてゐる自分を見下ろして行くやうな氣かして何となく嫌だつた、右隣りに店を出してゐたのか唐辛子や、頭のつる／＼禿げた剽輕な老人さんか、店の後の台の上に胡座を搔き、妙に身體を搖りながら、始終、「えゝ、大辛に中辛」といつて、小さな袋へ七色唐辛子を詰めて居た、簪や又時々隣りへ店を出して、紅紫、金色、色々の簪や櫛やリボンか奇麗に並べてあつた、其處へ自分と年恰好の娘か、お母さん姉さんに連れられて何かを買ひに來るのを見た時などは、羨しいと思つたか、何故か自分はお父さんに買つて呉れとせがまなかつた。然う／＼。或る晚本を並べると、急に雨か降り出して來て困つた事もあつた、本か能く賣れた時などは、お父さんも機嫌か宜くッて、本を箱に藏つて小なさ車へ載せて歸る途中、角の芋やて燒芋を買つて呉れたりした、それを内へ持つて行つてお母さんと一諸に食へるのか、何よりの自分の樂みだつた。あゝ思へば、昔の自分かつく／＼いぢらしくなる……電車か通る、俥か二輛、威勢のいゝ掛聲と共に走つたふらリッと、眞赤な顏か店の前に顯れた、見れば金緣の眼鏡を掛けて、楊枝を銜へてゐる、雜誌とお菊の顏を等分に見てゐたか、軈て熟柿臭い息をあとに消えて了つた。あとはしーんとして、夜寒のいたく身に染みるを覺える、お菊は思はず襟を搔き合せて、尙も昔の思出に耽つた。

その露店を出して居た頃の事である。或る人通りの少ない、寂しい晚に、年は十四でもあつたらうか、みそぼらしい風裝をしては居るが、何處となく品のある少年が來て、連りに本を探して居た。やがてよりどり十錢の處にあつた本を見てゐたが、急に口を開いた。

「それは十錢だね、五錢に負からないかい？」

お父さんは負からないと答へたので、少年は默つては居たが、ひどく悲しさうな顏をして、殘り惜しさうに行つて了つた。其時の顏が子供の自分にも、大變氣の毒にもまたなつかしく思はれた。然うすると次の晚も、其少年がまたやつて來て、前の晚と同し本を取り上げて、又五錢に負けて呉れと言つだが、お父さんは矢張負からないと答へた。お父さんは前の晚に來た子だとは思はなかつたらしいが、自分はちやんと覺えてゐる。さア然うなると氣の毒で堪らないので、餘つ程お父さんに負けてお上げなさいと言はうとしたが、それも出來なかつた。みれは少年の眼には、淚が滲み出してゐたが、それを氣付いたのは、恐らく自分一人であらう。あゝ彼の人は屹度内が、自分の内のやうに貧乏で、彼の本が買ひたくてならないのだけれど、買へないのであらう……と、色々と小さな胸を痛めた結果、其次の晚には、惡いとは思つたが、お父さんの眼を偸んで、其本をよりどり五錢の處へ廻して置いた。それが妙巧く行くか何うかは、其時は考へて居なかつたらしい。然しそれは自分の有りッ丈けの智慧を絞り出して考へた事であつたのだ。そして今か今かと昨夜の人を待つて居たが、其人は來なかつた。其後の事はもうぼーッとして分からないが、兎に角其事は自分には妙に悲しい思を抱かせて、其悲みは永く自分の胸を去らなかつた。夫れ以來月日は夢のやうに流れて、十年以上も經つたが、今日計らずも昔の彼の人に遇つたのである。自分も直ぐに想ひ出せない位だつたから、彼の人はもう自分を忘れてゐるに違ひない、否自分などを覺えて居る筈がない。……今の御樣子をみると、御出世をなすつたやうだが、屹度心掛けの善い方に違ひない。さるにても彼の忘れ難い昔の事をお話しても見たかつた。想ひ出して下すつたらうか……あゝ何だか物足りないと、お菊は恨めしいやうな、さては味氣ないやうな氣にもなつた。彼の時十三四の人が、もう彼んな立派になつたのだ。自分も思へば大きくなつた。然し何だか貧乏だつた昔がなつかしい。其頃の事を考へると、悲しい事も嫌なとも澤山あつたが、然し只譯もなく泣いたり笑つたり、自分獨り悲んだり、氣を揉んで居た事が、もう二度と來ない、永劫歸り來る期がないと思ふと、嚴かなやうな悲しいやうな、又果敢ないやうな何とも言へない心持になる。お父さんも大變苦勞なすつたやうだが、其後漸く暮し向きの方も樂になり、それから奉公に行つてゐた兄さんが年期が明けて歸つて來る。其時小さな呉服店でも出せといつて貰つた金で、此町で雜誌店を開いたが、店も段々繁昌して今のやうになつた、然しお父さんは四年前に、您んなに店も大きくならなかつた内に、彼の世の人となられた。大變自分を可愛がつて下すつたか、もう少し生きてゐて下すつたなら……と、お菊の眼からは早、淚がはら／＼と零れた。

柱時計か十時を打つた。用足しに行つた兄さんは未だ歸らない。夜風かすーッと吹いて來る。溝の中で蟋蟀か、いかにも心細げな聲で鳴き出した。（をはり）

暑中御見舞

時下酷暑難凌御座候處皆々樣益々御健勝に被爲涉奉賀上候扨ホテル及雜貨部共各位の御引立に預り日に月に隆盛に相成候段難有御禮申上候就而は客間の造作器具及夜具等も新調清潔を旨とし親切叮嚀且つ廉價に總て勉强仕候間倍舊御來遊被下度尙雜貨部の方も一層勉强安價に販賣仕候間御購求被下度先は暑中御見舞迄如此御座候　頓首再拜

高等御旅館　滿洲ホテル
和洋御料理　上松榮次郎
呉服反物米穀雜貨　全雜貨部員一同
遼陽城內西門內

土木建築請負業
暑中御見舞
大連愛宕町　合資會社澤井組
遼陽出張所
千金寨派出所
奉天派出所

土木建築
和洋雜貨
煉瓦製造
合資會社　有馬組出張所
遼陽城內西街

暑中御見舞
時下炎暑の候皆々樣御健勝に被爲涉奉賀上候陳者弊ホテル事各位樣の御引立に預り御陰を以て日に增し繁榮致候段有難深く御禮申上候就而は座敷の新設及び室内の造作等も出來尙玉突及び大弓等の遊戯場設備も有之候に付御納涼旁々御來遊被成下度奉希上候
守備隊御指定　高等旅館
遼陽西門外　遼塔ホテル

特約店　營口永世街　和田保分莊
販賣店　全舊市場　羽村洋行
全　新市街　羽村洋行支店

時下炎熱の候皆々樣益御健勝に被爲涉奉賀上候弊店儀開業以來各位の御引立を蒙り日に月に繁榮に赴き候段難有御禮申上候就ては尙一層御便利相計り度兼て當地へ御光來の節は大石橋驛にて御乘替の爲め諸事御不便且荷物御取扱の御困難等奉推察今回同地に出張所を設け常に店員出張爲仕候間御遠慮なく御申付被下度萬事親切丁寧に御取計可申候何卒倍舊御愛顧の程伏て奉願上候
營口新市街　電話二三五　旭ホテル
一宿泊料　特等五圓　壹等四圓　貳等三圓　參等二圓

活版印刷
遼陽白塔下　遼陽印刷所　杉本心一
今般業務を擴張し汎く四方の需要に應じ申候

寫眞
東京神田　山本寫眞館　遼陽支店

米穀食料品　諸雜貨陶器
正實正價に販賣致候
遼陽西門外　福島洋行

守備隊指定御旅館　並に御料理
遼陽西門外　藝陽館

土木建築請負業
測量設計圖案等高需に應ず
遼陽西關　溝上工務部

暑中御見舞　和洋料理
此頃は暑さの砌り皆々樣御機嫌宜敷被爲渡何より御目出度奉存候左樣に御座候へば毎々御引立に預り難有一同御禮申上候就而は暑中の事なれば野外に納涼處の設けも有之候まゝ御凉み旁々御來遊被下度呉れ／＼も念じ上げ候
遼陽西門外氣はらし內　藝妓仲居一同

夏物呉服反物各種
新柄澤山取揃此際特に破格の大勉強可仕候
營口永世街五十三號　辻呉服店（電話三五五番）
追伸電話にて御用命下され候得者直に持參可致候亦地方よりの御注文は特に梱合等に注意し誠實迅速に發送可仕候

祝滿洲日報社二週年

盛

販賣主要品

舶來諸雜貨
西洋家具
室内裝飾品
文房具類
中國上白米
極上木炭

專賣品

清酒稻正宗
ヱビスビール
最上京印醬油

牛莊

電話貳〇番

盛進商行

講談 假名太閤記

(第二十二席)　松林伯知講演

扨秀吉公は千利休娘死去の後は大奥にて淀樣を愛される事一方ならず、又淀樣は才色すぐれし人なるに淺井の娘と來て居れは秀吉公も氣兼をする位なれは其權の强いとおびたゞしい、夫を見て嫉妬を抱で居る局の内に北の政所は別物として松の丸、加賀局三條の局の御三方あり、中に松の丸は淀樣附なれど三條、加賀の兩局は無論政所附て淀樣反對の側なり、事に三條の局は蒲生氏郷の妹にして才智過れし者なれは、淀樣の愛されるを見て己れ淀君何とかして缺點を見んとし居り、中老の千代香と呼ふ奇才の優し女を味方として、淀樣の秘密を探らせしに石田三成より淀君へ送りし文を見出し密かに千代香は三條の局の前に來り　千「お局さま一大事を見出しました　三「一大事とは　千「上樣を欺計五奉行の石田と通し内外を謀る淀樣其證據は此文」と出ずを手に取上　三「オヽ然し名はないが　千「宛名を出しては御身の大事、佐山より志賀の君へと認ためしは、いはつも知れた佐山は佐和山志賀は淺井の本國たる近江の國との隱言葉お局樣お分りになりましたか　三「大方はわかりましたか千代香、三成は上樣の御取立、今は國家の柱石として五奉行の一人、源氏の時の畠山沛公の時の蕭何陣平、夫が何とてア、淀めと不義を働き居ろうとは　千「そこが戀は思案の外て然し貴女樣のお兄い樣も奥州會津で百万石　三「其百万石は名のみにて今ては却つて山流しと兄は愛へて居る位、それも離れ故あの淀故それについて千代香其方と梅路の二人に話いたす事もある

千「シテ其おはなしは　三「外てもない淀の產し捨丸と淀を」と話の内に梅路と云ける二十の上を未た多く越ぬ美人の來りしかは是幸と三人は膝を交へて協議に及びましたは何事かと申ますると、別議てない其頃は未た迷信の甚だしい頃なれは、人を呪咀殺すと云ふ其手立は藁人形を油て煮て眞言の法力を以て祈り殺すと云ふ、右を三條の局は信して千代香と梅路に語つて兩人も淀君を常から怨んて居る故、早速に承知して遂に醍醐の三法院と云ふ今はないが、昔は盛んてあつた(今の三寳院てはない)此寺院の住持たる龍雲と云ふ者頗る墮落の人間て表向は道德の僧と見せかけて居る、二人の婦人千代香と梅路は北の政所の御依賴故に呪咀へと依賴し、寺領三千石下さると云ふので心迷ひ龍雲和尚委細承知して、きつと淀樣及び淀樣の子、捨丸樣を呪咀殺して御覽に入んと約束を致しました、夫ればかりかお受の書面まて出しました故、千代香梅路兩人は立戻りまして三條の局の前に出て、千「お局樣三法院の龍雲は首尾よく承知致しまして今夜より祈りまするて　梅「翌日の夜より聚樂の奥へ怪異の出るは目前當りてございませう　三「いかに氣丈の淀めも呪咀の爲には命短く、あの捨丸も亡ひるならん、左すれは君の御寵愛も此身にかへるは目前あたり、千代香梅路御苦勞てあつたよ」と千代香には衣服　梅路には帶一すじ下され兩人も喜びましたが、果して龍雲の呪咀功を奏して豊太閤の奥殿へ如何なる怪異の現はるゝか否次號

●支那巡捕の進步　去る二十二日十時過一夫婦に小供二人寢具其他少しの家具包を持ち二臺の車を急せつゝ奉天停車場に向ふ淸國人あり小西關街の一巡捕は一見怪しと看ては猶豫せず取押へて一應訊問の上第五分局に拉し行けり此人物果して如何なる犯罪あつてか事未だ分明せずと雖も成程見た處其風采といひ夜中搬家の有樣といひ一訊問は少くも免れ間敷人物なり街上の巡捕夜中人通稀れなるを見れば反て自身惡事を成すの通弊は唯一年前の奉天の形勢なりしが今日かゝる巡查らしき巡捕の擧動を見るに至つて大に其發達を喜ばずんばあらざるなり

●アイヌの色沙汰後聞　例の强慾なる七つ屋の主人古河が國元を出づる時に全く無資本にて爾來夫婦諸共爪を燈し人の生血を絞りて漸く今日にまて漕ぎ付けたる程なれば其妻もなか〳〵の莫連者にて客に對しても頗る薄情なる遣り方をし且つ近所へも無愛嬌にして受けも宜しからす一條縄では行けぬ女なり扨て古河は去る五月頃無理に妻を追ひ出してお榮を後釜に据ゑ付けんとせしも妻は頑として聞き入れす共々に仕上げたる財產なれば若し離緣するならば一千圓を申し受くへし左なくば一足も此家を去らじとダヾを捏ねしかば古河も生命より貰き金を差出すは惜しきことゝて其儘お流れとなりそれより、お榮を新市街の或料理店へ圍ひ置き內をタにして入浸り妻をして呆れさせてロハにて追出さんと企こるも妻は其手には乘らず却て夫の留守を幸ひに質利などを十分腓繰りて万一の用に備へ置くなど流石アイヌだけに双方の作戰計畫頗るシミッタレ主義とは嘔吐を催す話にこそ尙如何に成り行くへきかは追うて揭ぐへし

●淫婦玉轉がしへ轉り込む　遼陽城內東洋館の酌婦おセイ(一七)は元名古屋臺所町の片隅にて初聲を擧げただけあつて早くも男狂ひをなし御定りの如く流れ〳〵て昨年春右の料理店へ漂着し始終泥水社會に寸ツラの踏める所より之れを自慢にして波瀾を引き起し居りしがドウ魔化したのか遂に伊藤某の滿妻となり一時は榮華の夢を見しも根が浮氣者なれば其處の食客に袖を引かれしとやら引きしとやらて忽ち御拂箱となり垢染みた古浴衣一枚で市中をウロツキ居る中ハタと出逢ひたるは玉轉がしの田中とて以前二三回見知たる客なればロ先きでウマク言ひ黑めトウ〳〵轉がり込みて窃に天下の模樣を窺ひ捲土重來と云ふ凄い誤計畫中とは恐れ入つたる莫連者にこそ

●女將の道行　夕主嶺に夕日館と云ふアンペラホテルあり其處の女將は元福岡近在にて三文拍子を勸めし者なるが今の主人に受出されて共々に滿洲へ押し渡りたり夫のあるにも拘はらず根が浮氣者なれは時々客と關係して其都度悶着を引起せり主人が先頃酌婦を抱へんとて內地に歸りたる其留守を幸ひに高田某と云ふ者を引入れ家業は一ッチノケにして巫山戲散らし面白ろく可笑しく日を送りたる中近々夫が歸り來る由の通知ありければ今更ら狼狽せしも此儘愛しき男を手離すに忍びず遂に有金を掻浚ひ「高田はんサアおぢいなあ」と手に手をとりて道行と洒落れ込み遼陽指して落ち行きたるは兩三日前のことなりとか定めて主人は今頃夢見が惡かるへし賤業上りを妻に持つ者の善き手本なりと云ふへし

●借家の悶着　奉天小西關元万直しの家屋は日人間に轉貸を重ねたるものなれば此まで家主と、間に屢苦情を生ぜし事ありしが本年四月以後の如きは特に甚しく一度山本なる借受人が家主側に無斷にて契約以外の借家權及造作を他人に賣り渡したるより買賣者間に悶着を生じ現に領事館に訴訟を提起せし程なるが爲めに家主は甚しき迷惑を感じ家賃の如き何人よりも支拂ひ呉れずとて頻りに苦情を陳べつゝあり實に淸國人家屋借受最も困難にして巡警局さへ日人の借受けを間接に妨害する今日此等の事柄は遇ま淸人に有力なる口實を供するものなれば特に注意を要すべき事なり

●エヂフト煙草の內地土產　大連より日本內地に致さんとする土產物を詮索するもあらす玆に於てエヂフト煙草は唯一の土產物として歡迎せられ出航前每に相當に賣行あり然るに昨今內地税關は漸く嚴重に搜查して許さす且つ一旦税關の關門を免るゝも更らに又專賣局員の爲めに發見さるゝ事なしとせず而して昨今税關に於て飲料適當の數量と認めたるものに對しては封印を爲して下渡すことゝなり居れり其以外の品は前記煙草專賣局員の發見と共に告發されさるへからす歸航者たるもの大いに注意すへし税關の認め許す其程度はエヂフト百本入一箱夫れも口を明けたるに限る徒に萬一を僥倖せんとして多くを携帶するは危險千萬なりと

●吹螺拍子の取消文　編輯局各位樣筆硯益々御多祥奉慶賀候就ては七月二十二日御發行の紙上に法螺藝者と題し御筆勞樣にも貴重の紙面を而も一段近く植字いたされ稼業柄或は光榮ならんか、なれとも事實は全然正反對にして妾事會々客席に侍り候でも何んとなく氣恥かしくして歌絃の外にとるべき筈の御機嫌をもとりかぬる內氣ものに候へは貴紙の記さるが如き法螺とやらは試し一ト度御聽し被下度〳〵必定野心不逐行の御客樣か又は私に恨を抱く人の中傷的投書を貴社も輕々しく御記載のとと被存候今更兎や角と理屈を並べ候も詮ない事固より藝者如きもの、名譽回復も嗚呼の沙汰に候へども言はねことは無いとして御取消被下度候〳〵　大連吉野町松の家內　力彌

●奉天の喜笑一座　奉天にて久しく開演したりし壯士劇一派は大して高評も博し得ず次第細りの不景氣にて愈其所在の酌婦と道行きの幕位にて去る二十一日より消え失せたりしが此度歌舞伎芝居實川喜笑一座の乘り込みとなり去る二十四日より十間房假小屋に於て開演せり不景氣ながらも芝居といへば女本位の滿洲殊に十間房と來てはかなりの入りも之あるべく自然は市中の賑ひともならむといふ

三面便り　(大連)

拜啓滿鐵は滿洲開發の親玉と承り居り候處果して各方面まで行き渡り料理屋及び如何はしき邊へも一點の拔目なく御手の屆き候には只管感服の至りに候▲其御蔭にて四大料理屋は每夜入時半には客止めの姿に候同社員一同車を連ねてノベツの御越しは炎暑の折柄御苦勞千萬に存じ候內地ならば其後庭に稻荷樣を建立も置候も右の料理屋にては新に滿鐵大明神を祭り居り候▲滿鐵山の方々は月俸大枚三十圓位の大人にても每月一回何とか歟とか名を付けて出張し旅費日當等を合せて凡そ一百圓に達し候由に候其實は右料理屋の白拍子との交際費として特に御手當相成候哉に承り候誠に結構なる次第に御座候▲三井寺の鉄輪和尚は扇芳亭にて留別會を開きし際上白一斗を炊かして之を席上に散らし其上で藝者に「ステヽコ」を踊らせ候由隨分呆れたる奴に候本山を賴みて橫暴なる擧動今更ならねど癪に障り申し候早々(香通生)

投書かご

▲會堂に起れる讚美の歌美しからすや會衆は今し醉へる樣嗚呼此ピヤノにバイオリンに果たオルガンに浮かれたる輕薄の調が天に達したとき神はどんなに視給ふだろう(宗五)▲わが眞詩人を見すや彼は流るゝ水に生命の文をつゝり峙つ山に慰藉の力を賦す花は彼に美しく戀を語り星は彼に高き秘言をさゝやく月光露華岳色江聲何ものか詩人溫情の一分身たらさる(大連無名生)▲鐵嶺の大老爺は小心の方で我々の企業等に就ては何時も愼重に過ぐる万事縮少主義か事なかれ主義か知らぬが日人勢力の發展上には却て如何かと思はる(鐵嶺一漂客)▲營口座て大分小供の見物を見受くるが彼等の父兄の氣か知れぬ教員樣ちと家庭をも覗いて戴きたい(蘭草)▲淸人は工業の頭腦がないから新に販路を求めると云ふ貨物に付ては丸切り相手にならぬ之は吾々の大に考ふべき處である(天民)▲鐵嶺某醫院は餘り上手でもないのに診察料や藥價の滅法高いには驚いた(善し惡し)▲海城停車場の靑瓢簞の切符賣は不都合だ内所で驛長に申告るぞ(疳玉)▲公主嶺驛の○○君秤の目を誤魔化そのはお手際なものだ(公司苦力)▲鉄嶺西門外丸萬樓の支店に二三の美形が居る今一寸其批評を試みようか朝野は面長の色白て溫順の愛嬌者筆子は活潑で洒落が上手で咄嗟の間に人の腮をはづさしむ最後に武坊は無邪氣な性質で未だねんね丈に面白い(殺活坊)▲營口座の源氏節はなか〳〵熱心の者だ別ても美代松さんの曲彈は頗る上手なもので最負連の喝采は雷の如く鳴つた(定連)▲戰勝亭がつぶれたので投書欄の種子が減つて來た(二休)▲忠魂碑祭典の辨當は東京樓の手で遣るとに爲つたさうだが時節柄充分衛生に注意して貰らいたい(衛生小僧)▲左官の沒人道と題したる記事は田村長次郎同重太郎の兄弟兩人より事實無根の由來申越ありたれは一應取消す(編輯掛)

米國直輸入　ゴム合羽、長靴　盛進商行(電話二十番)

爲替相場(七月二十四日　名のみ)

正金銀行

內地 軍票百圓ニ付	一〇三圓〇〇	一〇四圓七五
上海	七一兩〇〇	七二兩〇〇
天津	一〇四圓五〇	一〇三圓五〇
芝罘 銀百弗ニ付	一〇五圓〇〇	一〇四圓〇〇

大連地方　南の風晴れ
奉天地方　南の風晴れ

昨日の氣溫　最高八四、四　最低七〇、〇
昨年の比　低一五、六　低一、四

社告

豫告に從ひ本號には滿洲十美人畫附錄を添附すべき筈の所寫眞の蒐集に意外の日子を要し候爲め製版亦從つて延引し昨日本紙摺上迄に竟に到着せず讀者の翹望に負くこと最も多しと雖も復た如何ともする能はず因て本社は今後二週間內に必ず讀者の劉覽に供せんとを此に聲明致し候

明日は一日丈け臨時休刊致し候

本日は祝意を表する爲め一同休業候間特に御了知置相願候

滿洲日報社

滿洲日報ヲ始メ各地新聞廣告取次
無報酬ニテ廣告ノ意匠文案ニ應ス
新市街千代田街　實業社

滿洲日報の二週年誕辰を祝す　岸宇之吉

祝 營口紀念日 滿洲日報二週年
弊行各位の御愛顧に依り日に增し繁榮仕り候段難有御禮申上候此度多々新着荷仕候に就而は聊か平素の御厚情に報ゐんが爲め從來よりも一層勉強仕貴需に應じ可申上候間多少に不拘御用命の程一重に奉願上候敬白
明治四十年七月二十六日
營口元神廟街　矢野洋行　電話一三七番

祝 營口紀念日 日報社[...]二週年
土木建築請負業　加州組　營口北本街(電話八六番)
加州組鐵工部

祝
滿洲日報創刊二周年
河又大連出張所開業二周年
福

味噌
醤油

河又

営口大石橋間

○旅客列車は本表に掲ぐる時刻により運轉すべけれ共止を得ざる故障の爲め遅延する場合もなきに限らず